

人権研究集録

第71回徳島県人権教育研究大会発表に向けた取り組み

社会福祉法人 鴨島ひかり会
鴨島ひかり乳幼児保育園

目 次

豊かな心を育み心が繋がるネットワーク	2
2019 年人権研究（ひよこ組）	4
2019 年人権研究（りす組）	8
2019 年人権研究（うさぎ組）	14
2019 年人権研究（きりん組）	20
2019 年人権研究（調理）	29
ひよこ組アンケート集計結果	33
りす組アンケート集計結果	36
うさぎ組アンケート集計結果	40
きりん組アンケート集計結果	43
調理アンケート集計結果	47
鴨島ひかり乳幼児保育園が3年間積み重ねてきたこと	54
終わりに	57
人権研修担当クラス名簿	58

豊かな心を育み心が繋がるネットワーク

鴨島ひかり乳幼児保育園 坂 尾 美 佳

松 野 愛

1 はじめに

本園は生後2か月～3歳未満児を受け入れる乳幼児保育園である。まず人権を大切にしたい保育とは何か、本園における地域ネットワークの地域とは何か、ということを経験者間で考えることから始めた。職員間での話し合いを通して「一人一人の子どもの人権を大切に、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作り上げていくこと」「私たちに一番近い保護者(地域)との連携を図るために、まず園での保育を積極的に見える化していくことで、より信頼関係を築いていくことができるのではないか」との方針が得られた。

保育者が保護者の不安や悩みに寄り添い、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感し合うことにより育児不安を和らげ、保護者が我が子を「愛おしい」、子育てを「楽しい」と感じられるよう、保育の見える化と保護者と共に子どもの豊かな心を育む保育をめざして取り組んだ。

2 保育の見える化

(1) ドキュメンテーションの活用

日々の子どもの様子を保護者にすべて伝えるということは難しく、園での活動の様子、保育の内容を少しでも分かりやすく多くのことを知ってほしいという思いから、ドキュメンテーションを掲示することにした。園での生活を子どもたちはまだ十分に言葉で伝えられないため、継続的にドキュメンテーションを掲示することで保育の内容を保護者に理解してもらえるようになった。ドキュメンテーションに写る子どもの姿や表情を見て保護者は安心感をもつことができたり、子どももその時のことを思い出せたりするので、親子の会話をつなぐコミュニケーションのきっかけにもなっている。実際に「園でのイメージがわきやすく、毎回とても楽しみ。」という声が寄せられた。また降園時にも「今日はこんなことをしたんですよ。」とドキュメンテーションを活用して保護者とのやり取りを膨らませることもでき、繋がりを深めるきっかけにもなっている。

(2) 栽培を通しての食育活動

園庭の畑で子どもたちと一緒に野菜の栽培を行っている。苗植えから水やり、収穫まで体験し、子どもたちが自園の調理室へ持っていき、収穫した日に調理をして給食で提供している。「これはみんながさっき採ったキュウリよ。」と保育者が知らせると「みんなでお水あげたやつやな!」と喜んで食べる子どもや、野菜が苦手な子どもも手に持って嬉しそうに見ている。給食の展示ケースにも「子どもたちが育てた野菜を使いました」と紹介し、降園時に親子で見て「おいしかった?」「うん、〇〇が採ったキュウリよ。」と親子の微笑ましい会話も聞こえてくる。「子どもが育てた野菜を調理して給食に出してくれる。なかなか家ではできないことなので嬉しいです。」との声も寄せられ、食育活動の内容を知らせていくことも継続していきたいと感じた。

3 保護者と共に子どもの豊かな心を育む

(1) 愛情をこめて一人一人の名前を呼ぶ

お迎えの際に、Aさんを愛称で呼んでいると、一緒に迎えに来ていた小学生の姉から「なんで、Aなのに〇〇ちゃんなん?」と言われた言葉にハッとさせられた。子どもにとって、正式な名前

で保育者や友達から呼ばれることは、一人一人が人として尊重されていると実感できる一步に繋がると考える。そこで、日々の保育の中で保育者が意識して、そうした呼び方で呼ぶことにした。そうするうちに、子ども同士でも正式な名前と呼び合う姿が見られるようになった。その姿を見て、子どもは身近にいる大人から様々なことを吸収し素直に表現するというところに改めて気付かされた。だからこそ、子どもが自分の名前を呼ばれることを心地よく感じるができるよう、一人一人の人権を大切にしながら、職員間で共通理解を図り継続していきたい。

(2) 絵本を通して愛着関係の形成を図る

本園では、絵本の読み聞かせの時間を大切にしたいと考えている。しかし、子どもたちが同じ興味をもてる素材に出合うことは難しく、月齢の小さい子どもたちの多くは途中で飽きてしまうこともあった。そこで、「一人一人の子どもの思いを満たすにはどうしたらよいのか」を職員間で話し合う中で、子どものつぶやきや思いに寄り添い、愛着関係を大切にできるように子どもたちと絵本をじっくりと楽しむ時間をつくるようにするために、少人数で読み聞かせを行うことにした。そうすることで、以前はページをめくることを楽しんでいた子どもたちが、保育者の膝に座り、場面を指差し「これは？」と保育者の顔を見てたずねる姿が多く見られるようになった。「この人は自分を大切にしてくれる」「自分のイメージや思いに共感してくれる人がある」と感じたからだと思う。子どもの姿を通して保育者が安心感と信頼感を与えることの大切さを改めて感じた。絵本に興味をもった子どもたちの姿を丁寧に伝えることで、保護者も絵本に関心をもつようになった。家庭での読み聞かせを通して、保護者が子どもの表情の変化や成長に気付き、子育ての喜びを感じたり読み聞かせの大切さを感じたりすることに繋がった。

4 地域と共に行う、防災訓練・AED講習

保育園の閉園時間や夜間休日でも、地域の人がもしもの時に使用できるよう、AED（自動体外式除細動器）を屋外に設置し、正しい使い方を身に付けることができるよう地域参加型のAED講習会を実施した。さらに、避難消火訓練への参加も呼びかけ、園児の避難誘導の補助や消火訓練の体験を行った。地域の人たちは主体的に活動に参加し、子どもたちも地域の人たちが消火訓練をしているときには、「がんばれ。」と声をかけ、地域の人々も笑顔で応えていた。園と地域が一体となった訓練となり、「また機会があれば参加したい。」との声が寄せられた。今後も、園と地域の繋がりを深めていきたい。

5 おわりに

本園の取組が家庭にどのように伝わっているのかを知るため、保護者に記述式のアンケートを実施した。予想以上にたくさんの方から回答が寄せられ、「園での様子を知ることができてうれしい。夕食時に『こんなことをしていたよ』と家族と会話をするのに繋がっている。」など好意的な回答が多かった。しかし少人数ではあるが、回答に至らなかった保護者がいたのも事実である。これからも、本園の取組を保護者に理解してもらえよう働きかけるとともに、保護者の背景にある環境や思いに寄り添っていくことが私たちの課題である。

今回の取組を通して、子どもと保護者のありのままの姿を受け入れ理解していくことが何より大切であると感じた。子どもを「幼い子ども」ではなく「一人の人間」として尊重していくという人権尊重の姿勢が保育者にも根付いてきている。子どもを通して保護者の悩みや思いに寄り添い、一緒に考えていくことで子育て（ともそだて）の喜びに繋げ、子どもと保護者一人一人の人権を尊重した「心の繋がり」をさらに深めていくことができるよう努力していきたい。

2019 年人権研究（ひよこ組）

1. クラスの実態 0 歳児 12 名 計 12 名

2. 研究テーマ（1）心を育む豊かな言葉かけ
（2）保育の見える化

3. 研究内容

（1）心を育む豊かな言葉かけ	
研究テーマ 設定の理由	・人が生きていく上で、他者と共存するために重要なツールとなるのがことばである。そのことばを獲得していく乳幼児期に保育者が手本となり、愛情のある丁寧なことばで語りかけ応答することで、子どもが社会生活の基礎を学び、人とのかかわる心地よさを感じていくと考えた。
具体的な 取り組みや 方法	・愛情をもって声をかける ・表情豊かに話す ・子どもの目を見て語りかける ・成功した時にはしっかり認める ・丁寧な言葉遣いをする ・子どもに寄り添った言葉がけをする ・子どもの思いに共感する ・子どもの思いを代弁する ・思いを認める言葉がけをする ・否定や禁止よりポジティブな言葉がけをする ・肯定的な言葉がけを心がける ・愛称で呼ばないようにする ・その場ですぐに褒める ・絵本の読み聞かせを行う ・抱っこをする（目と目で対話する） ・心地よいと感じられるような言葉がけをする
（2）保育の見える化	
研究テーマ 設定の理由	・保育の内容や子どもの日々の様子の伝達や収集を行うことで、保護者との相互理解も深まる。また、保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるようにするためには保育の見える化が必要と考えた。
具体的な 取り組みや 方法	・連絡帳で日々の出来事を細やかに知らせる ・送迎時の保護者との対話（保護者の気持ちに寄り添い、助けになるような声掛け、支援） ・クラスだよりの充実（写真と文章で解説・子育ての知恵、ワンポイントアドバイスなど） ・不定期のドキュメンテーション（園外保育など） ・個人懇談を通じて（どのような園生活を送っているか写真と話して説明、お母さんの悩み相談） ・入園前の見学

4. クラスのめざす子ども像

- ・心もからだもたくましい子ども
- ・自分も友だちも大切にしている子ども
- ・心豊かで思いやりのある子ども

5. 実践事例

（1）－1 豊かな心を育むために「絵本の貸し出しを通して」

①事例

30 年前から、1 歳になった子どもたちに毎週 1 冊の絵本を貸し出している。それは、親子間のコミュニケーションツールとしての活用と、豊かな心を育むというねらいを持っている。保育者が一人一人の興味関心に合った絵本を選んで貸し出すことが多いが、連絡ノートやアンケートから保護者の意見や要望を聞き、繰り返し同じ絵本を貸し出すこともある。

②保護者の反応

アンケート結果より

- ・あまり読めていない。
- ・どんな本を貸してくれるのかたのしみ。
- ・続けて欲しい。

- ・色んな本に出会えるのでありがたい。木曜日に貸してくれるので週末にゆっくり読んであげられる。
- ・自分で選ばないような物もあったりして、幅も広がりとても良い取り組み。
- ・読み聞かせ好きなのでとても良い。
- ・今まで絵本にあまり興味を待たなかったが、楽しそうに見ている。
- ・なかなかゆっくり絵本を読んであげる機会がないので良いと思う。

③省察

アンケート結果を受け、保育者が思っていた以上に絵本の貸し出しについて肯定的な意見が多かったが、中には「あまり読めていない」という意見もあり、読み聞かせがなかなかできないことに負い目を感じさせることになっているのではと感じた。決して強制や押しつけではなく、親子でコミュニケーションを取ってもらいたいと考え行っているが、それを伝えることの難しさも感じている。忙しい日々の中ではあるが絵本を通して5分でも子どもとの時間を作ることは、愛着関係が深まることに繋がるということや、言葉とその意味とをつなぎ合わせるきっかけとなるということを伝え、今後も継続したい取り組みである。

(1)ー2 「いないいないばあ絵本の読み聞かせから発展した遊び」

①事例

クラスだよりの絵本紹介にも掲載したが、ひよこぐみの子どもたちは「いないいないばあそび」という絵本が大好きである。喋り始めの子どもたちに「ばあ～」は流行語となっている。絵本の中だけでなく、遊びとして発展させたいと考え、余り布の端切れで作ったミニ絵本や、ペットボトルと端切れでいないいないばあスティックを製作し、子どもたちとやり取りを楽しんでいる。さらに、運動会の競技にも「いないいないばあ」を取り入れ、親子で楽しんでもらうことができた。

②子どもの姿

絵本を繰り返し読んでいく中で、まだ言葉が少ない子どもも次の展開を予想し、期待を持って見入るようになってきた。さらには保育者が「いないいないばあ～」と読むと同時に「ばあ～」と発し、期待している動物の顔が見えると、笑顔も見られるようになった。端切れで作ったミニ絵本では、0歳児でも手に持てるので自分でひらいて「ばあ～」と楽しむ姿も見られる。

③省察

いないいないばあ遊びは自分の大好きな物が見えない状態から、その単純な言葉と共に「ばあ～」と現れ、ほっと安心感を得られる遊びである。その単純作業を繰り返し楽しんでいく中で、必ず「いないいない」の後には大好きなものが現れるという確信と幸福感を持つことができる。そのことは子どもの情緒の安定に繋がる。玩具や絵本がそばになくても、手で顔を隠すだけで「いないいないばあそび」はできる。こんなにも単純かつ、安心感を得ることのできる遊びは他にないのではと思う。

(2)ー1 保護者とのよりスムーズな連携を図るための「ドキュメンテーションの活用」

①事例

保育の充実のためには、保護者との連携は欠かすことができない。そこで日々の連絡ノート、送迎時での対話でも日々の子どもの様子を伝えるようにしている。しかし、すべてを伝えるということは難しく、少しでもわかりやすく、少しでも多く子どもの様子、保育の内容を知って貰いたいという思いから、不定期でドキュメンテーションを発行している。そして、目に入りやすい各クラス前の掲示板に掲示し、送迎時に保護者に見てもらえるようにした。

②保護者の反応

Kちゃんの祖母

「わ～可愛い。来週なら（赤ちゃんを産んだばかりの）ママも来られるのでそれまで貼っておいてもらえますか？Kちゃんここに居るね。」と写真と一緒に見ながら、やり取りを楽しむ姿が見られた。

Nちゃんの母

「忙しい中でもこうやってして、すごいですね！見て分かるので嬉しいです！」我が子を抱っこしながら一緒に写真を見、子どもが指さしていることをほほえましく見つめながら話していた。

Yくんの母

(節分の様子の掲示を見て)「〇〇～、こんなの来たん？あられエイッて投げたん？」と語りかけ、写真を指さす我が子とやり取りをしていた。

【アンケート結果より】

- ・毎日見ている。園での様子がわかっておもしろい。
- ・その時どういう風に過ごせていたのかよく分かるのでとても良い。
- ・園でのイメージがわきやすく、毎回とても楽しみ。
- ・保育園での日常の様子が知れて、とてもほっこりする。
- ・家庭では見ることの出来ない一面を見ることが出来るので、嬉しい。
- ・夕飯の時に「こんなことしてたよ」と家族で会話することもある。
- ・園での様子が少しでも見られて良い。

③省察

保護者の反応やアンケート結果を受けて、やはり保護者は我が子の園での姿を少しでも多く知りたいし、写真でパッと見てわかる情報というのは喜ばれるという事がわかった。またドキュメンテーションを見ながら我が子との対話を楽しんでいる姿を目の当たりにすると、結果的に親子のコミュニケーション材料となっているということがわかり嬉しく思った。園という社会の中で小さいながらも頑張っている我が子の姿に気付くことで、我が子を一段と愛おしく思えるのではないかと感じる。そして、子どもから力を貰ったり励まされたり、優しく接しようと思うきっかけに繋がると考える。家庭と園との相互理解を図ることになる取り組みであるので、今後も継続して行っていきたい。

(2)－2 「長期欠席園児へのお見舞いハガキ」

①事例

0歳児ということもあり、体調を崩し欠席をした場合には1週間以上と長引くことも珍しくない。当園では電話で様子を伺うだけではなく、担任からお見舞いハガキを送付している。園児本人を見舞う気持ちは当然のこと、保護者へ向けても、我が子が病気で大変な時に寄り添い、心細い思いが軽減できるようにすることもねらいとしている。

②保護者の姿

Dくんの母

ー連絡ノートにて

「帰ってみると、ひよこぐみの先生から体調を気遣ってくださる手紙が届いていました。お気遣いありがとうございました。いつも気にかけてくださり、とても嬉しいです。」

ーお迎え時にて

「ハガキありがとうございました。嬉しかったです。」と笑顔で言ってくれる。

③省察

昔から続いている取り組みではあったが、このような反応を自分自身が受けると、やはりやって良かった、継続してきて良かったのだと思えた。小さな事ではあるが、このハガキを受け取ることでDくんの母親の心に少しでも明るさや安心感をもってもらうことができたのかもしれないと、穏やかな笑顔を見たときに感じた。今後も継続し、子育てを保護者だけで背負い込んでしまわないよう、「園も一緒になってこどもの成長を見守って行きますよ。」という姿勢を示していきたいと思う。

(2)－3 「途中入園児への聞き取り面談・慣らし保育」

①事例

毎年、年度の途中から入園を受け入れる途中入園児が居る。入園する月の前月に、親子で来園してもらい、園児の食事状況(離乳食段階)やミルク・哺乳瓶の種類、入眠しやすい方法などを細かく聞き取っている。それだけではなく、初めて保育園を利用する保護者には特に、不安感を少しでも軽減してもらえよう、丁寧な説明と「心配なことはありませんか？分からないことは何でも言ってくださいね。」と伝えるようにしている。また、新入園児の精神的負担を考え、2週間程度の慣らし保育*を行い、無理なく一日保育へ馴染むことができるようにしている。(*家庭の事情には柔軟に対応している)

②保護者の姿

どの保護者も、来園初日はどこか緊張した表情で不安な印象を受ける。こちらが程よい距離感を保ちながらも、笑顔で歩み寄っていくことで次第に保護者の緊張もほぐれてくるように思う。いざ当園初日を迎え、2日目、3日目と子どもの様子を伝えあう中で、少しずつ保護者の方から「今日は、どれくらい泣きましたか?」「ミルク飲めたんですね。」など話しかけてくれることが増えていく。

③省察

初めての子育て、初めての保育園利用という方が多く居る本園では、まず私たち保育者が心を開いて、保護者のありのままを受け入れる事が重要であると考えている。子育てって楽しい、子どもの成長って嬉しいと思えるようなサポートができるポジションでいる必要がある。共働き家庭で忙しく、育児に困り感を抱いている保護者に対し、園としては共にお子さんを育てていきましょうね、一人で子育てを背負わなくて大丈夫ですよと肩の荷を降ろしてもらえようようにすることも大切な役割である。

(2) - 4 「ひよこぐみだより『子育て知恵ぶくろ』掲載」

①事例

毎月発行しているクラスだよりに、2か月に1度のペースで「子育て知恵ぶくろ」と題し、様々なジャンルのコラムを掲載している。子育て中の保護者の方のヒントになることが少しでもあれば良いなという思いから、その時期や子どもの発達段階を見て担任間で話し合い、タイムリーな記事になるようにしている。

これまで掲載した内容

- | | |
|------|---------------------|
| 5月号 | 保育園に預けるときに泣くので辛い |
| 7月号 | 食ベムラについて |
| 9月号 | 何でも口に入れるので困る。中毒110番 |
| 11月号 | 後追いが始まり困る |
| 1月号 | 遊びのパターン化について |
| 3月号 | 転園・進級大丈夫かな |

②保護者の反応

アンケート結果より9名中7名が「読んでいる」と応えたものの、2名が「読んでいない」という回答だった。

【アンケート結果より】

- ・すべて参考になっている。
- ・不安が解消される方も居ると思うので良いと思う。
- ・とても分かり易く勉強になる。
- ・ちょうどその時期に悩んでいたことも有り、こうすれば良いんだと参考になった。
- ・これからも続けてほしい。
- ・とても参考になっている。
- ・タイムリーなコラムなので参考にさせてもらっている。あまり大丈夫ですよと言われることもなく不安な事も多いので続けて欲しい。

③省察

インターネットや育児書などで様々な情報や知識が飛び交っている世の中ではあるが、保育園が発行するお便りに掲載することで、保護者が手軽に情報を受け取ることができ、興味を持ってくれるのではと考えた。アンケート結果から、「読んでいる」と答えた保護者は好反応な意見ばかりだったが、「読んでいない」と答えた保護者がなぜ読んでいないのかを考え、内容の検討やお便りのレイアウトなども改善していきたい。この記事を目にして、「あ、こうすればいいんだな」「こんな方法もあるんだな」と、保護者が抱えている育児不安を少しでも軽減することができればと思う。

2019 年人権研究（りす組）

1. クラスの実態 1 歳児 6 名 0 歳児 9 名 計 15 名

2. 研究テーマ（1）心を育む豊かな言葉かけ
（2）保育の見える化

3. 研究内容

（1）心を育む豊かな言葉かけ	
研究テーマ 設定の理由	乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、人間として豊かにたくましく生きていくための基礎を培う最も重要な時期である。特に、人のかかわりの中で、一人一人の人権が尊重され、愛情や信頼を受けることで自己肯定感や自尊感情が育まれていくものであると思う。そのためには保育者が一人一人の状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行い、愛着関係を大切にしていけることが必要であると考えます。 言葉の出始めるこの時期だからこそ ・保育者等の応答的なかかわりや語りかけにより、自ら言葉を使おうとする。（第2章保育の内容2 1歳児以上3歳未満児の保育にかかわる（2）ねらい及び内容エ言葉（イ）内容①より） ・喃語や片言を優しく受けとめてもらう中で、心の安定を得て表情や発声を豊かにしていく。（第2章保育の内容1 乳児保育にかかわるねらい及び内容（2）ねらい及び内容イ身近な人と気持ちが通じ合う（イ）内容（ウ）より） ことを目標とする。
具体的な 取り組みや 方法	①子ども一人一人の名前を愛情をこめて呼ぶ。 （欠席しているお友だちの名前も呼ぶことで一人一人の存在を大切にする） ②「すごいね。できたね。」と少しでも自分でできたら自信と意欲を持つことができるような言葉かけをする。（自己肯定感を育てる⇔心を育てる） →できないことに目がいきがちだが、できたことへ目を向ける。他者と比較しないようにする。 ③ポジティブな言葉かけをする。 （具体的に）「～してはだめでしょ。」→「～しようね。」ついつい否定語やネガティブな言葉を使ってしまうが、ポジティブワードに変換する。 ④乳児は全身を精一杯使い、何かを伝えようとしているので、保育者はその言葉にならない言葉を受けとめ、あふれる愛情を込めて精一杯応答していく姿勢を大切にする。 ⑤「マザリーズ」を意識する。 ⑦少し高い声で話す⑧抑揚を大きくつけて話す⑨同じ言葉を繰り返し話す ⑩ゆっくり間をとって話す⑪微笑みながら話す ⑥優しく声をかけ、抱きとめたり、一緒に遊んだり、心ゆくまでかかわることで、子どもは自分のどんな感情も受け入れてもらえた安心感で、自立への道を自然に自分の足で歩み始めることができる。
（2）保育の見える化	
研究テーマ 設定の理由	・保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである。（第1章総則 1 保育所保育に関する基本原則（1）保育所の役割ウより） ・保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気づき子育ての喜びを感じられるように努めること。（第4章 子育て支援 1 保育所における子育て支援に関する基本的事項（1）保育所の特性を生かした子育て支援イより） ・保育所は、子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行わなければならない。（第1章総則 1 保育所保育に関する基本原則（5）保育所の社会的責任アより）

	・保育指針に基づいて、保護者とのコミュニケーションの一番のツールとして共に育てるということを見えるものとして連絡ノート・クラスだよりの充実を目標とする。
具体的な取り組みや方法	保護者とコミュニケーションを図り、子どもの育ちを共有する。 ・個別の様子を送迎の際や連絡帳で伝える他にクラスだよりの保育参加（懇談やさまざまな行事）を通して保育の方針や子どもの理解について発信し、保護者との協働・相互理解を図っていく。 ・朝夕送迎時には忙しくても必ず保護者と目を合わせ、その日の体調や機嫌など話す。 ・連絡帳には子どもがどんな様子で過ごしていたか具体的な活動や日々の成長の記録、保護者が安心してもらえるような内容を伝える。 ・保護者の悩みはまず受け入れ、こうしたらいいですよと上から答えるのではなく、共に考え答えを導いていけるようなかわりをしていく。 クラスだよりの充実 ・その月の保育目標に沿ってクラスの現状、子どもの様子を担任間で反省を含めて話し合い、来月はどんな取り組み（保育目標）をするか考えて次のクラスだよりに繋げる。（反省や成果を次月に載せるなど） ・子どもの興味のある遊び・歌・絵本など細かく知らせていく

4. クラスのめざす子ども像

- ・たくさんの人に愛されることで、人を愛し思いやる心がもてる子ども（自己肯定感を育む）
- ・よく遊び、豊かな感性と想像力のあふれる子ども(主体性への基盤)

5. 実践事例

(1)「絵本を通して、家庭との信頼関係を図る。」

①事例

子どもの姿

Aちゃんは前年度からの継続児。4月は新しい環境に興味を示し、一人で機嫌よく遊ぶ姿も多く見られた。5月の連休明けより大泣きし、抱っこやおんぶをしてスキンシップをとるも、なかなか泣き止むことができなかった。ある日抱っこで読んでいた絵本に興味を示し、「アッアッ」と笑顔で声を出す。

保護者の姿

連絡帳や送迎時に、絵本に興味をもって楽しむ子どもの姿を丁寧に伝えることで、保護者も絵本に関心をもってくれた。そして、貸し出し絵本のリクエストをしてくれるようになる。「『いないいないばあ』の絵本を見せると声を出して笑ってくれるので、読んでいるこちらにも楽しくなります。絵本の読み聞かせをすることで子どもが好きなものへの反応を見ることができ、いろいろなことを親自身も学ぶことで良いですね!」と笑顔で話された。

②省察

5月の連休明けから泣き始めたAちゃんが、泣き止むきっかけになったのが絵本だった。

Aちゃんが絵本に興味を示した様子を紹介したことで、お母さんも絵本に興味をもってくれた。また、お母さんも読み聞かせすることで子どもの表情の変化に気づき、成長の過程を目の当たりにし、喜びを感じたり読み聞かせの大切さを感じたりすることに繋がった。

このように、一人でも多くの親子がコミュニケーションの1つとして絵本を活用し、家庭でも読み聞かせを通して実際に子どもの反応を見ることが、子育ての喜びにつなげていけるようにしたい。また、今後も保護者の子育てに対する不安を丁寧に受け止め、一人一人に応じたかわりを一緒に考えていくことを大切にしていきたい

③<絵本を通して、家庭との信頼関係を図る。>の省察

保育園で子どもたちが絵本に興味をもっている姿や、好んで見ている絵本を知ってもらうため、連絡帳や送迎時を利用して丁寧に伝えたり、クラスだよりで「おすすめ絵本」のコーナーを通して保護者に伝えたりするようにした。すると、毎週行っている絵本の貸し出しを心待ちにしてく

れたり、連絡帳に家庭での好きな絵本を知らせてくれたりするようになった。また、アンケートでは、「改めて本の大切さを知った。」「絵本をきっかけに子どもが、覚えた言葉があります。」「本を真似て箱に実際に入ったり、子どもの反応が楽しかった。」「子どもの好き嫌いを知るきっかけになった。」「同じ絵本でも兄弟で反応が違うことがおもしろかった。」など、絵本を親子で読むことは、子どもだけでなく大人にとっても心が育まれる大切な時間になったとともに、子どもへの理解が深まったと保護者が感じてくれた事は、よかったと思う。また、園でも愛着関係を大切にしながら、一人一人のつぶやきや思いに寄り添うことができるよう職員間で話し合い、一人一人の子どもと絵本をじっくり楽しむ時間を作るようにした。そうする内に、以前はページを捲ることを楽しんでいた子どもたちが、保育者の膝に座り、場面を指差し「これは？」と保育者の顔を見て訊ねる姿が多く見られるようになった。保護者と子どものコミュニケーションを図るため、絵本を活用した取り組みを試みてきたが、この研究を通して読み聞かせは「家族（先生）や友だちと心を通わせる」「想像する楽しさを味わう」「豊かなイメージをもつ」「言葉に対する感覚を養う」ことに繋がっていった。また、「この人は自分を大切にしてくれる」「自分のイメージや思いに共感してくれる人がある」など、子どもの姿を通して保育者が安心感と信頼感を与えることの大切さを改めて感じるようになった。子ども一人一人の思いや姿を受けとめながら、保育者が地域や家庭と子ども、子どもと子どもを繋いでいく役割を果たしていきたい。

（２）－１ 感触遊びを通して五感の育ちと心の育ち「はじめての感触遊び」

①事例

子どもの姿

４月から入園しているＢちゃんはなかなか自分の遊びが見つけれず、お友だちとかかわる姿もあまり見られない。送迎も祖母が多く、保護者とは連絡ノートで毎日のやりとりをするが、家庭では自分の名前を覚えたり、数字や字を覚えさせたりする教育的なかかわりが少し気になり担任間でもよく話をしていた。ある日行った新聞紙遊びに全く興味を示さない。とうもろこしの皮むきでも触ろうとすることなく、とうもろこしを持たそうとしても泣き出してしまうほど嫌がっていた。

保護者の姿

教育的なかかわりが多いＢちゃんの保護者にも感触遊びの大切さを伝えていく事から始めた。保育園での感触遊びの様子をドキュメンテーションや、毎月発行しているクラスだよりなどで、なぜ感触遊びが大切かの説明と共に、家庭でもお父さんやお母さんと一緒に楽しめる例を紹介していくようにした。しかし、大好きな水遊びの様子を見ようと喜んで保育参観には参加してくれたが、それまでの子どもたちの制作や感触遊びの様子をドキュメンテーションにしたものには、関心を示さなかった。

②事例（その後の変化）

子どもの姿

とうもろこしの皮むきや新聞紙遊びは興味を示さなかったが、少しずつしゃぼん玉遊び・水遊びには興味を示し自ら触れようとする姿が見られるようになった。特に絵の具遊びは初めから嫌がることなく、自ら絵の具に手を伸ばし、手のひらを握ったり開いたりしながら笑顔で絵の具の感触を楽しめた。

保護者の姿

もっといろいろな経験を積み重ねたり保育の中で大切にしたりしていることを知ってもらおうと、Ｂちゃんの楽しむ姿を丁寧に連絡帳で知らせることにした。少しずつＢちゃんの興味があることを家庭でも試そうとしてくれるようになったり、時間を作ってはお迎えに来

てドキュメンテーションや給食のサンプルを見ながらBちゃんとの対話を楽しんだりする姿が見られるようになった。

③省察

子どもたちの姿を通して、改めて保育の中で取り組んでいきたいことについて考えてみた。まずは、感触遊びの大切さについて担任間で共通理解を図り、保育の中に感触遊びを多く取り入れ、子どもと一緒に保育者も楽しむようにした。

～なぜ感触遊びが大切か？～

感触遊びとは、感覚遊びのひとつで五感（視覚・聴覚・臭覚・感覚・味覚）をフルに使って遊べる遊びである。乳児期から感触遊びを行い、たくさんの物に触れてきた子どもは、刺激をたくさん与えられ好奇心旺盛で、何にでもチャレンジしようと新しい試みをもつことができるようになる。また、想像力など考える力が備わり、新しい出来事にも動じずに受け入れられるようになることが期待できる。

感触遊びの様子は連絡帳やクラスだよりで丁寧に伝え、保護者にもより興味をもってもらうためにドキュメンテーションを活用する。ドキュメンテーションは、時間がなくゆっくり見ることができない方や、園に来て見る機会がない方のために、ホームページへの掲載を行うようにした。両親のお迎えがほとんどないBちゃん家族も、園での生活や遊びに興味はもっているであろうが、どの程度なのか反応を窺うことがなかなか難しく、もどかしさを感じることもあった。しかしもどかしさは保育者だけなのか、保護者にも仕事と家庭の両立で、毎日お迎えに来ることができず、園での様子を担任から直接聞く事ができないもどかしさがあるのではないかと、とちどちまって考えることができた。お互いの思いを知るために、子どもの好きなことやできた事などを連絡帳や祖父母を通して詳しく伝えるときに、保護者の思いや悩みを丁寧に受けとめ、一緒に考えていくことを大事にしていきたい。そして保護者にも感触遊びの大切さが伝わるようなかわりを続けていきたい。

（２）－２ 感触遊びを通して五感の育ちと心の育ち「小麦粉を使った感触遊び」

①事例

子どもの姿（感触遊びの様子）

「わぁー何かな？」「見ててね！」と保育者が小麦粉を袋からボールに移し、「雪みたい。さらさらだよー」と言いながら上部から粉をボールに落とし、水を入れながらこねるとじーっと見入っていた。粘土状になったものを側で見せると、やはり触ろうとはしなかった。粘土が嫌なら粉の感触なら？…と思い「さらさらだよ！」と言いながらボールを差し出すと、少しだけ手を伸ばすもののやはり触ろうとはしなかった。そこで保育者がBちゃんの手をとり一緒に触ってみると、粉の感触を気に入り握ったり、保育者を真似して粉を上からさらさらと落とし、落としたりすることができた。その後、「こねこね」と言いながら粘土をこねてみせると、手を伸ばして触ることができ、その後こねて遊びだす。「すごい！Bちゃん」「楽しいよね！」と声をかけると嬉しそうな笑顔を見せて、「今日はおしまいね」と声をかけるまで楽しむことができた。

保護者の姿

子どもたちの楽しんだ粘土を籠の中に入れて飾り、お迎えにきた祖母に様子を丁寧に伝えた。「楽しかったん？」と祖母がBちゃんに語り掛け、実際に粘土に触れて「何を混ぜているんですか？」「家でもできますね！」「必ず娘に伝えます」と言い小麦粉粘土に興味をもつと同時に、子どもが楽しめたことを一緒に喜んだ。

後日、祖母の話や昨日の連絡帳を読んだ母からは、「健診時に『初めてのことに慎重になる姿が見えるのでいろいろな経験をさせた方が良い』と言われた」と報告してくれ、「家庭でも一緒に楽しめるので必ずやってみます」と連絡帳を通して反応を寄せてくれた。

②省察

感触遊びでは泣いて嫌がることの多かったBちゃんが、初めて笑顔でじっくり楽しむことができた。Bちゃんが興味をもって取り組んだことだけでなく、周りの友だちの様子も見ながら遊ぶことができた。そのことを早くお母さんにも伝えたいと思った。「楽しめた」「できた」ということを聞き、お母さん自身も嬉しく感じ家庭でもやってみようとする様子が窺えた。

この事例を通して、園での子どもの姿を丁寧に伝えていく事は私たちにしかできない大事な仕事だと改めて気付くことができた。子どもを通して保護者の悩みや思いにもふれ、一緒に考えながら育て（ともそだて）の喜びに繋げていくことを大切にしていきたい。

アドバイスを受けて改めて感覚過敏の子どもについて担任間で話し合った内容

子ども自身が感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養うことは創造性を豊かにするといわれている。身近な自然や事物に関わる中で、発見や心を動かす経験が得られるのは五感をフルに使って遊べる感触遊びが良いと考え、りす組では感触遊びを多く取り入れ保育をしてきた。もともと感触遊びを行う時は、子どもの様子に合わせて無理強いすることなく、子どもが楽しめる事を一番に考えて行ってきた。感覚過敏の子どももいることは、知ってはいたが、今回改めて考えさせられる機会となり、今後も子どもたちの様子を丁寧に見て、子どもを1番に考えて保育することを大事にしていこうと担任間で改めて話し合った。（感覚過敏の子どもへの配慮は感触遊び時だけではないので…）

③＜感触遊びを通して五感の育ちと心の育ち＞の省察

感触遊びを通してのBちゃんの変容を聞き、「『実際に子どもの姿を見てみたい』と、お休みの日に小麦粉を使ってBちゃんとパン作りを行いました。ふわふわの生地をコネコネと楽しそうにして、顔も服も真っ白になって頑張った」と、後日お母さんから嬉しい気持ちが込められた報告があった。

クラスだよりや連絡帳、ドキュメンテーションを通して保育者が大切にしたい思いや保育の内容に共感してくださる保護者の方が多くみられ、「家でも集中してちぎったり、握ったりしています。」「小麦粉粘土を触ろうとしなかったと聞き、家で米粉粘土を試してみました。やはり嫌がっていましたが、なぜだかスライムは喜んでいました。」など、他の保護者の方からも家庭での様子や子どもたちの反応が寄せられたことは、私たちの喜びとなった。このことから、様々な人たちとのつながりや、こと、ものを通した経験は、子どもたちの心の栄養となり、将来の育ちへと繋がる重要なものであると感じている。

子ども一人一人に違いがあり、比べるのではなく、目の前にいる子どものありのままの姿を受けとめていく大切さを保護者と共に感じていきたい。そして、不安や心配だけではない、子育てすることの楽しさや喜びを、これからも共有できる保育者集団でありたいと思う。

（３）気づき

①事例

子どもの姿

小さく生まれて発達はやっくりだが、何でもよく食べ、活発に遊ぶCさん。自己主張も強く、大きな声で泣いて自分の思いを伝える。また、独占欲が強く、特定の好きな保育者のそばでずっと一緒にいることが多い。

保護者の姿

月齢がだんだん上がってくると、家庭でもやはり大変なようで、母親はいつも疲れた顔をしていた。年度末にクラスアンケートを実施したが、この保護者だけ回答してもらえなかった。

②省察

大変な子育ての中、Cさんの保護者はいつも疲れた顔をしている。お迎えの時や行事の時など

はできるだけ職員がお手伝いするようにした。また、連絡ノートや送迎時のやりとりの中で、いろいろ悩み事には共感し丁寧に答え、常にお母さんの大変さを理解し気遣ってきた。お母さんの体調を気遣う言葉をかけたり、元気がでるようなエピソードを話して笑い合ったり、子どもたちだけでなく、保護者との信頼関係もしっかり築けていると思っていた。

今年度自分たちがしっかり行ってきた毎日の保育や取り組みを、保護者にはどのように伝わっているのか、どのように思われているのかをアンケートで答えてもらった。工夫して作り上げてきたクラスだよりや、子どもを主体とした遊び、愛情と優しさをもっていつも子どもたちが笑顔で穏やかに過ごせるように考えてきた毎日の保育、全てにおいて保護者からたくさんの温かい声をもらった。しかし1番気になっていたCさんの保護者からはアンケートの回答はもらえなかった。自分のなかでは、1年間、しっかりとお母さんに向き合い、共に子育てにかかわってきたつもりだったので、自分の思い上がりだったのかとすごく辛く、寂しく思った。

この研究に取り組むある日、園長から励ましの言葉とともに、過去、保育日誌の中に「今日三つ子が～」と書かれてあった話を聞いた。「3人にもちゃんと名前がある。それを三つ子とひとくくりにしてしまう、そういうことがもしかしたら保護者にとっては気になっているところではないか。また、そのことに気づくことが私たち保育者には必要なのではないか？」と話す園長の言葉から、はっと気づかされた。保育の中ではもちろん一人一人の名前を呼び、しっかりと愛情をもって保育してきたが、何気ない私たちが発している言葉で、もしかしたら嫌な思いをしている人がいるのではないかということを改めて感じた。それから自分自身をもう1度見直し、気をつけるようにした。しかし気にかけて他の保育者の言葉づかいに耳を傾けてみると、やはりたくさんの保育者が「三つ子」という言葉を使っていることに気づいた。この3人は卒園してしまうが、これからも保育園には、多生児が入園してくることもあると思う。その時にまた同じく返しをしてはいけないと思っている。こうした保育者それぞれの気づきを、これからの保育のために保育者間で共通理解を図っていくことが、一人一人の子どもの人権を尊重する保育につながるものと考ええる。

2019 年人権研究（うさぎ組）

1. クラスの実態 1 歳児 14 名 計 14 名

2. 研究テーマ（1）心を育む豊かな言葉かけ
（2）保育の見える化

3. 研究内容

（1）心を育む豊かな言葉かけ	
研究テーマ 設定の理由	・1 歳児は言葉を学んでいく大切な時期で保育の中で子どもにかけられる言葉はとても重要なものと考え。まだ十分言葉では表せない気持ちを表情や仕草から受け止めていく中で、否定的な言葉ではなく、保育者の受容的、応答的な関わりの中で欲求を適切に満たし安定感を持って過ごせるよう「心を育む豊かな言葉かけ」を実践することが大切であると考え。 第1章総則1－（2）オ 生活の中で言葉への興味や関心を育て、話したり聞いたり相手の話を理解しよう とするなど、言葉の豊かさを養うこと。 2－（2－2）イ（イ）① 一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行う。
具体的な 取り組みや 方法	○子ども一人一人を「ほめること・認めること」 ①自分でできたこと、頑張ったことを褒めよう。失敗してもその頑張った過程を認めよう。 ②「自分で」という気持ちを大切に 子どものやりたい気持ちを育てる。 ③毎日、明るく元気に挨拶をしよう。 相手との気持ちを通わせることでもあり、喜びや楽しみ、感謝の気持ちを伝え合う。
（2）保育の見える化	
研究テーマ 設定の理由	・乳児保育園にとって、人権教育の地域ネットワークの核は保護者である。最も身近な存在である保護者との信頼関係を築き、連携をとっていく事は重要であると考え。保育園での様子や取り組みなどは、保護者にとって分からない事もあるので、それをどう伝えていくか考え「保育の見える化」ということに取り組んでいきたいと考えた。 第4章 子育て支援 2－（1）ア 日常の保育に関連した様々な機会を活用し、子どもの日々の様子の伝達や保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めること。
具体的な 取り組みや 方法	①ドキュメンテーションを通して日々の保育を伝える。 食育活動・行事・散歩の様子などを写真で掲示する。 ②クラスだよりの充実 クラスでの様子や取り組みを伝え保護者に知らせる。 子どもの好きな（興味のある）手遊びや絵本、ペープサートなどを紹介する。 ③送迎時に子どものエピソードを伝える。 子どものその日の様子や、頑張ったことを伝える。

4. クラスのめざす子ども像

- ・自分のことを大切に思い、友だちにも思いやりをもてる子ども
- ・「自分で」という思いをもち、自分なりに頑張る子ども

5. 実践事例

（1）「噛みつき」について
事例1－①

子どもの姿

5月頃には、自分が遊んでいるところにお友だちが横に來ると噛んでしまう事が多かった。遊びには集中できていることが多く、自分の遊びを邪魔されることが嫌で噛みつくことがあったが、言葉も少しずつ増えて友だちとの関わりも増えてきた。AさんはBさんと遊ぶ事が多くなり、2人での玩具のやり取りは楽しそうにしているが、そこにCさんが来ておもちゃを触ろうとすると、大きな声を出して噛もうとする。

事例1-②省察

Aさんがお友だちを噛むことが多くなってしまい、担任で話し合い保育者ができるだけ側にいて一緒に遊んだりしながら見守るようにした。その中でAさん自身は集中して遊んでいることに気がついた。まだまだ言葉も十分ではない1歳児クラスで言葉より先に行動に出てしまうことが多く、その都度「かして」「どうぞ」「ありがとう」という思いを言葉にして保育者が伝えるようにしてきた。Aさん、Bさんの間では遊んでいる中でのやり取りは、微笑ましく見守ることができる。クラスは月齢の小さい子もいて、玩具を取ってトラブルになることも多い。また言葉にできない思いなどを十分に受けとめながら、子ども同士のかかわりを大切にしていきたい。

事例2-①

子どもの姿

生活の中で、子ども同士のかかわりも増えてきた。特に他の子がしていることが気になり、近くに行きすぎたり、使っている玩具を触ったり取ったりすることも増えてきた。Aさん自身は一人で遊んでいることが多く、じっくりと集中していることもある。そんなAさんの遊びが気になるのか、使っている玩具を触ってしまい、他の子どもが取ってしまう場面もよくあり、取られたAさんは噛みついて抵抗することが多い。

事例2-②省察

少しずつ言葉が出るようになるにつれて、それぞれに自己主張が強くなり、いろいろな場面で自分の思いを通そうとする姿が多くなってきている。中でもおもちゃや場所の取り合いなど、友だち同士のトラブルが増え、自分の思いを通そうとするあまり、相手を押したり、叩いたり噛みついたりすることが目立つようになってきた。まだ言葉が十分でない時期の子どもたちなので、それぞれの嫌な場面での自己表現であり、どうにか自分を守ろうとする防衛策でもあることを理解しつつも、特に噛みつきが起こった時は、噛んだ子も噛まれた子も、私たち保育者も心を痛めてきた。気をつけてはいるが、どうしても起こってしまう噛みつきに、どうしたものかと悩んだり、保育者間で話し合ったりしながら、防ぐ努力をしている。以前から、トラブルになるとすぐに噛みついてしまいがちなAさんについては、担任間で話し合い、保護者にも保育園での様子を伝えていろいろ考えてきた。もし、トラブルが起こりかけても噛みつきを未然に防ぐため、それまでよりもっと気をつけて側でみるようにしている。そばについてAさんのことをよく見ていると、一人で集中してよく遊ぶことや遊んでいる物を取られたり、邪魔をされたりするときに、思わず噛もうとする姿があることがわかった。そばでしっかり見ていると、トラブルが起こりかけたときに、制止したり、それぞれの思いを言葉にして伝えることでトラブルを回避したり、対処することができた。噛みつきが起こってしまった場面だけを見ると、Aさんだけが悪いように思いがちだが、決してそうではなく、噛むときには必ず理由があることが分かった。「いやだったね」と言葉をかけるとすぐに落ち着き、気持ちを受けとめてもらうことで納得する姿も見られた。

噛むことが特別に悪いことではなく、Aさんなりの表現であって嫌な場面に遭遇した時に、大きな声を出したり、泣き叫んだりすることと同じだと理解できた。

事例3-①

子どもの姿と保護者のかかわり

保育室でままごとをして遊んでいるとき、Aさんは保育室の隅の方でお皿にケーキを入れ

てひとりままごとを楽しんでいた。「ハッピーバースデー」と一人にこにこ歌っている声も聞こえる。そこへBさんがやってきて何にも言わずにAさんが遊んでいた玩具を取っていった。取られたAさんはBさんを噛んでしまう。「噛んだらだめ！！あかんよ！！」と叱ると泣くのがひどくなった。Aさんは取られなければ噛む事はなかったのに強く言い過ぎたことを反省し、真剣な顔でゆっくりと「返してと言葉でいおうね」と声をかけると頷き、「返して」と言う。こうした噛みつきの出来事は一人遊びが多かった9月頃までは時々起きていたが、最近他児と遊ぶ姿みられるようになった。一緒に遊んでいてトラブルになって噛まないだろうかと見守っていたが、「どーぞ」「あーとー」などのやり取りがみられる。

事例3－②省察

噛むことはいけないことだが自分が遊んでいる玩具を取られなければ起きなかったこと。「噛んだらだめ！！」と強く言うてしまうことがあり、泣くのがひどくなる一方だった。真剣な顔でゆっくりと「言葉でいおうね」と話すと頷く。以前は、保育者が近くにいてAさんと一緒に遊ぶようにしていたが、友だちと自由に遊ぶことができなかったことを反省した。現在は、他児とのかわりが増えてきている。他児とやりとりしながら仲良く遊んでいることから、これからは、自分から友だちにかかわっていく姿を見守っていききたい。

(1)－2 「噛みつき」についての保護者の反応

【アンケート設問①】

保育園でお友だちとのかかわりも増えてきましたが、お友だちとの事で気になっていることがあればお聞かせください。

- ・お友だちを噛んだり、ひっかいたり、物をぶついたり、たたいたりしてないか
- ・お友だちと仲良くコミュニケーションをとれているか気になってます
- ・叩いたりしてないか心配です
- ・先生、お友達のことが大すきで毎日笑顔で登園させてもらってます
- ・お友達も持っているものを取りに行っているのではないか
- ・「バチーン！！」と言って叩いてくることがあるので、お友達にも叩いたりしてないか気になります。これも本人は遊んでいるような感じです。
- ・家ではおもちゃの取り合いになっても上の子たちがゆずってくれるので、保育園でも同じ感覚だとトラブルがおこってないか
- ・友だちを噛んでないか、おもちゃの横取りをしてないか
- ・お友達にも噛んだりしてないか心配です
- ・ない
- ・お友だちと一緒に遊べているか、ケンカしていないか気になってます。

【アンケート設問②】

子どもさんが噛まれた時に、どう思われましたか。

- ・噛まれたことはありませんが、どうなるという事もわかってほしい
- ・経験なし
- ・嫌だし痛い。何を目的に噛まれたのかわからないから、どうしたらいいかわからない
- ・園でもしてないか不安になった
- ・二日連続噛まれた時にはえ？！また？！と思いましたが、うちの子も噛んでいるかもしれないので、それは言えないなと思います。
- ・多少かまれたくらいは「お互い様」と思って気にしません。病院に行かなければいけないくらいだったら、少し不安にはなると思います。
- ・自分の子供が一度噛んだか噛まれたか…があった気がしますが。噛む事はイケナイと思い

ますが、何かあった時（連れ去られる）などの抵抗手段として「噛む」という行動も多少大事だと思います。噛む事によって「自分が注意される」事も大事だと思います。個人的な意見です。

- ・相手の子に噛んだりひっかいたりしていないのかと思った。
- ・お互いさまなので、先生が気づいて介入してくださっているので気にしていません。
- ・自分の子が噛んだのでないなら、この頃の子供にはあることなのでしかたないと思いました。
- ・驚きましたが特別な感情は生まれませんでした。子ども同士の事なので、多少仕方ない出来事かと思ってます。大きなケガでなかったので安心はしました。
- ・「痛い」と思った。かなり強い力で噛むので他人を噛んだら大変だと。

（１）－３ 「噛みつき」について保護者のアンケート結果で感じたこと

家庭でも、クラスの半数の割合で保護者または兄弟を噛んでいる子もいた。家庭でも自分の思いが通らないときなどに噛んでしまうことが多いようだ。だんだんと友だちとのかかわりも増えてきて、友だちを噛んでいないかと心配する保護者も多かった。

保護者には、子どもたちの「噛む」という行動にお互いさまと思い少しの理解はあるが、噛まれたら痛いという思い、自分の子どもは噛んでいないか？という不安もある。

私たちはこのアンケートで、様々な保護者の思いにも気づくことができた。友だちとのかかわりが増えてきているこの時期に、楽しく保育園で過ごせるように、子どもたちには友だちと一緒に遊ぶことが楽しいと思えるような環境を作っていくこと、保護者の方には安心して預けられるようにしていかなければならないと思った。

（１）－４ 「噛みつき」についての取り組みまとめ

噛みつきが多かった時には阻止しようといろいろと考えていたが、なかなか止めることができない時期が続いた。子どもの気持ちに寄り添い簡単な言葉で伝えること、保育者の配置などを考えて取り組んできた。その中で、トラブルになってしまった時に、噛んでしまった子、噛まれてしまった子、お互いの気持ちに寄り添うことが大事だということに気づいた。

これまでは噛んでしまった子には注意するだけで終わってしまい、その子の気持ちを聞いてあげることを忘れていたように思い、「〇〇さんは「痛かったよ」ということ同時に「こんなことが嫌だったね」と聞くように心がけた。

子どもたちは、だんだんと言葉も増えてきて友だちとのかかわりも増えてきている。「かして」「どうぞ」「ありがとう」という言葉も自ら言うこともあるが、私たち保育者も代弁しながら子どもたちのやり取りを見守っている。もちろん貸すことが嫌な時もあり、トラブルになりそうなことも多々ある。そんな時には、「もう少し待ってね」という言葉でお互い納得することもある。子どもたちは、自分の気持ちを十分に話すことができないことでトラブルにもなるので、子どもたちの様子を見ながら、気持ちに寄り添う保育をしていかなければならないと感じた。

（２）Ｙさんの母親について

８月よりうさぎ組にＹさんが異動する。その際に前担任より母親の状況についての申し送りを受ける。４月当初は登園時間に来られなかったり、時間通りに動けなかったりする事にパニックが起きていたが、異動の頃には落ち着いていたが引き続き様子をみていくことを話し合った。

①事例（８月）

８月上旬、９時半頃市役所より電話があり、近所より虐待の通報があったとの事。本児は９時前頃に父と登園をしていたが変わりのないようすだった。本児の体などをチェックするがアザなどはなく異常はみられなかった。

その頃のＹさんの園での様子は、クラス異動をしてまだ数日だが、部屋に入り玩具を見つけると、座って玩具を触りながら遊んでいる。体調は咳と鼻水が出ているが機嫌も良いが、活動の場面が変わると泣いてしまう状況にあった。

登園は父とする。挨拶をし土日の体調を聞くと「咳と鼻水が出ていました」という。

お迎えも父で、「お世話になりました」と言って帰った。

(省察)

市役所からの連絡で、保育者自身が戸惑ってしまった。保育者が対応する場面では、両親とも落ち着いているように感じていたが、Yさんも成長してきた事もあり、Yさんが自分の思い通りにならない事を母親が連絡ノートに書いていた、そうしたことが通報の原因と考える。何気なくいつもと変わらない様子でも、保護者にも寄り添う気持ちを大切にしながら、保護者支援をしていけたらと考えた。

② (9月)

9月に入り園庭で遊ぶようになる。Yさんは靴を履くのを嫌がり、履かそうとしても泣いてしまう。また、靴を履いて外を歩くのが嫌で泣く。母に聞いてみると家でも嫌で履かないという。「この子は頑固だから」という。

9月から園庭で遊ぶ事を伝え、いろいろと工夫をしてきていた。ずっと抱っこをして登園していたが、靴を履かせて車から歩く練習をしていた。だんだんと自分で歩いてくるようになり。両親にも喜ぶ姿が見られるようになった。

(省察)

活動が変わる場面で不安になったしまうYさん。嫌に思っていることに最初はゆっくりとかかわるようにした。靴を履く時も優しく声をかけながら対応した。園庭に出ても地面に触れるのも嫌がっていた。抱っこをして他児の遊んでいる様子を見て、車に乗ると楽しそうにするようになってきた。一つ一つの行動に不安になることが多い事に気づいた。Yさんの不安な様子を受け止めながら、楽しく過ごしていけるようにしていきたいと思った。また、保護者にはYさんのできないことよりも、安心できること、成長を共に喜んでいることを伝えていきたい。

③ (10月)

10月上旬、8時15分過ぎ、母親がYさんを抱っこして急ぎ足で登園をする。いつもは、ゆっくりとYさんを歩かせていたことが多かったので、様子が違うことに気が付いた。デッキの所に力が入る感じて置いて座らせる。お母さんの息が荒く感じた。「おはようございます」と声をかけると慌てた口調で「もう遅れそうやのに着替えさせてくれんでギリギリや」とブツブツと言いながら靴を片づける。「体調はどうですか？」と尋ねると「熱は36度4、咳と鼻水はあります」と早口で言う。保育者が抱っこをしていると「このバカ娘が」と言いながらほほを手で押すような感じで触って行った。「いってらっしゃい」というと立ち止まって振り返り、「お願いします」と言って駐車場に行った。駐車場ではすぐ車に乗って発進した。

(省察)

門を入ってきた時の音から母の様子がいつもと違うことに気がつく。母が慌ててイライラしている感じがしたので、母に対して落ち着いて対応しようと思った。母は慌てた様子で事務的にしゃべっていたので、ゆっくりと話をするようにした。ほほを押すようにした時にその言葉にびっくりしてしまったが、その後声をかけた時には、少し落ち着いたように見えた。午後からYさんは熱が出てお迎えに来てもらった時には、母は「朝から機嫌悪かったからやっぱり熱でたな」と言っていた。その時に、母はちゃんとわかっているのだと改めて思った。しかし、朝の慌ただしい時間にYさんが無理を言うことにイライラしてしまい、母も自分の気持ちが整理できないままになってしまい、その状況になってしまった。Yちゃんが「自分で」という気持ちも出てきて、色々な事を連絡ノートに書いて来てくれる。そのことに対してもひとつひとつ丁寧に応えながら、母の気持ちに寄り添っていききたい。

④保護者アンケートから

アンケートにうさぎ組日より9月号の内容を再掲し、家庭での様子を教えてもらうことにした。

・クラス日より9月号で「子どもの姿」というコーナーがありましたが、それを読んで、子どもたちの「できた」という思いに繋がることはありましたか。

子どもの姿

最近、うさぎ組の子どもたちは、何でも「自分で」という思いが出てきました。ズボンを自分で脱いだり履いたりすることも増えてきたのですが、その気持ちとは裏腹になかなかできなくて困っている事もあります。そんな子どもたちの気持ちに寄り添いながら子どもたちの「できた!!」という自信と喜びを感じられるようにかかわっていきたいと思っています。お家の方でも、「できた」を感じられるような応援をお願いします。

○保護者の反応 アンケート結果より

- ・自分からお手伝いすると言って洗濯物をたたむようになりました。できたとすごく喜んでます。
- ・手伝おうとすると嫌がるので、できるだけ自分でしたい事はさせるようにしています。
- ・風呂上りに紙パンツやズボンを渡して上手にはけたら「できたね」と声かけすると喜んでます。
- ・自分で!!が口ぐせの我が子です。園で着替えも自分でと促して下さっているのも、一人で着脱できるようになってます。
- ・最近パジャマを自分で着たがるようになったので、サポートしながら自分で着るようにしています。できたらハイタッチして喜んでます。
- ・はい。家でもズボンやら服を自分で着るので「すごいー。できたなーかしこい。」とほめちぎっています。
- ・自分で服を脱いだり着たりできるとほめると喜んでます。
- ・はい。服の素材に気をつけ（おたよりをみて）ゆっくり見守り、ズボンのぬぎはきができることがふえました。
- ・できるだけ邪魔をしないように手伝っています。又、できた時にはほめるようにして声かけを大事にしています。
- ・洋服等を自力で着ようと頑張ってる姿を見守っています。上手に着れると「できたー!!」と言って一緒に喜んであげています。
- ・今までしなかったパズルやくつを自分ではいっているところを見て、少しやらせてみると、昨日より今日、今日より明日という感じでできるようになっていくのを見て、成長を感じた。一緒に「できたー！やったー！」と喜ぶことができた。

○保護者の悩みなどについてのアンケート結果で感じたこと

Ｙさんの事例があり、「自分で」という思いが強くなるこの時期に、連絡ノートなどで保護者が書いてくる相談などに対して、私たちのアドバイスをどう感じているのだろうと思い、アンケートで聞いてみた。

保護者の方は、連絡ノートで私たち保育者が書く内容にはとても関心を持って見ていることがわかった。悩みだけでなく、子どもたちの園での生活にも興味があり、遊びなども参考にしてくれていた。

クラスだよりに載せた「子どもの姿」については、子どもたちの「できた」に繋がるようなたくさんエピソードを聞くことができとても嬉しく感じた。

○今年度の取り組みのまとめ

Ｙさんの事例があり、どうすれば保護者の気持ちにも寄り添えるのかと考えた。徳山先生からのアドバイスで「お母さんは、子どものできないことを聞くよりも、できるようになったことを聞くほうが嬉しい」という言葉を聞いて、私たちは、子どものできないことを伝えて保護者に協力してもらうことをしていたのかもしれないと思った。

できないことよりも、できるようになったことを褒めたり伝えたりすることにより、子どもたちは笑顔になり、保護者にも喜んでもらうことが増えてきたように思う。

子どもたちの「自分で」という思いは、これからも大切にし、保護者と共に協力をしながら「できた」に繋げていきたい。

Ｙさんのことは、保育園で頑張っている姿を母に伝えるようにし、成長を共に喜んで行けるようにしたい。継続してアザなどがないかなど毎日チェックをし、様子をみていきたい。

1. クラスの実態 2歳児 11名 1歳児 7名 計 18名

2. 研究テーマ (1) 心を育む豊かな言葉かけ
(2) 保育の見える化

3. 研究内容

20

	育てへの意欲や自信を持ち、子育てを楽しんでいることができるような働きかけや環境作りが必要であると考えます。 そこで、普段の保育内容や取り組み、保育者の意図などを分かりやすく知らせていくことで保護者との信頼関係を築き、家庭と連携を図りながら子どもの育ちを支えていきたい。 継続した子どもの育ちを見守ることができる保育園の特性を生かし、子育て支援を行っていくために「保育の見える化」に取り組むことにした。
具体的な取り組みや方法	①掲示板の活用 ・ホワイトボード…週1～2回保育内容や取り組み、子どもの姿などを掲示。 ・不定期に活動の様子を写真で掲示する。掲示した写真などはファイルに残し、見るができなかった保護者がいつでも見れるように手に取りやすい所に置いておく。 ②クラスだより…前月の子どもの姿、今月の取り組み、絵本・歌っている歌・手遊び紹介、ニーズに沿った子育てコラムなどを載せる。 ③送迎の際の会話 ・挨拶運動…まずは保護者との関係作りから。そのためには挨拶が大切。挨拶に一言添えることで、何でも話しやすい雰囲気づくりを心がける。まずは職員間→子ども→保護者へと自然と身に付くように。 ・迎への送り出し…「変わりありません」だけでなく、できるだけ一言エピソードを添える（子どもの姿・良い所・活動内容など）ことで子どもの良い所や成長に気付き、共に喜び合うことで子育ての楽しさを感じ、子育てへの意欲や自信を持つことができるように配慮する。 ④連絡ノート…一人一人の具体的なその日の姿や成長の様子を丁寧に伝える。保護者の悩み相談など。

4. クラスのめざす子ども像

- ・健康なからだと豊かな感性を持ち、情緒の安定した心身ともに豊かな子ども
- ・人を思いやるやさしい心、人に対する愛情と信頼感を持った子ども
- ・自然に親しみ興味関心をもち、自然のすばらしさや不思議さ、いのちの大切さを感じてできる子ども
- ・言葉への興味関心をもち、相手の思いを理解し豊かな言葉を育む
- ・豊かな感性や表現力、創造性のある子ども

5. 実践事例

(1) —1— 一人一人の名前を愛情を込めて呼ぶ

①事例

お迎えの際に、Kさんを省略した名前〇〇で呼んでいると、一緒に迎えに来ていた小学1年生の姉から「なんで、KなのにKちゃんなん？」と言われた言葉にハッとさせられた。そこで、日常生活の中での小さなことではあるが「一人一人の名前を愛情をこめて呼ぶ」という事を保育者が意識して実践してみることにした。

保育者が意識して呼ぶことで子ども同士も、愛称や省略した名前ではなく正式な名前で呼び合う姿が見られるようになってきた。

②省察

Kさんの姉の言葉から家族の方にとっては、愛称や省略した名前〇〇で呼んでいることに違和感を感じることがあるのだと気付かされた。普段の保育の中でも、つい子どものニックネームや省略した名前と呼んでしまっていたことを反省した。

また、きりん組になると保育者が呼んでいる名前を真似て、友だちの名前を呼ぶようになる。子どもにとって、本来の正しい名前で保育者や友だちから話しかけられることは、一人一人が人として等しく尊重されていると実感できる環境作りの一歩につながるのではないかと考えた。

こうして1年間取り組むなかで「幼い子ども」という見方を超えて、一人の人間として「大人(担任)対子ども」ではなく「人対人」として尊重していこうとする感覚が保育者の身に付いているように感じる。園全体で統一して取り組んでいけたらと考えている。

(1) - 2 絵本の読み聞かせ・絵本コーナーの充実

①事例

全員へ読み聞かせする時間がこれまでは夕方の集まりのみだったが、朝の集まり後にも読み聞かせする時間を持つようにした。「今日のおはなしは、〇〇です。」と絵本や紙芝居をみせると「やったー！」と喜び、毎日の読み聞かせの時間を楽しみにする姿が見られるようになってきた。読み終えた後は自然と「ありがとうございました。」と声をそろえて保育者にお礼を言うようになった。

また、絵本コーナーが4月当初は絵本棚にたくさんの本があり、雑然としていた。4月後半に数冊にしぼって置くようにした。5月に入り様子を見ていたが、片付けの時に絵本があちこち向いていたり、1、2冊なくなっている子どもも保育者も気付かず分からなかったりした。

② 保護者の反応

【アンケート結果より】

- ・興味をもって聞いてくれるようになった。「これ読んで」と持って来ることが増えた。
- ・少し長いお話も「これは何？」と出てくる物や動物に興味をもって聞けるようになった。
- ・普段の生活の中で絵本についての会話が出てきている。
- ・家でよく保育士が絵本を読むように真似している。
- ・お気に入りの本ができた。
- ・家にはない絵本を借りてくると嬉しそうに見せてくる。
- ・屋外の絵本コーナーも好きで、気に入った本があれば借りている。
- ・貸し出し用絵本コーナーもシリーズ分けされてとっても見やすく、「これにする！」と持って帰る回数も増えた。

③省察

絵本や紙芝居は新しい言葉との出会いであり、言葉の感覚や語彙を豊かにし、子どものイメージの世界が広がる。友達と一緒にお話のイメージをもって、ごっこあそびを楽しむ経験は子ども同士の心を通い合わせることにともつながるため、絵本の読み聞かせを大切に、絵本と出会い親しめる環境作りに取り組むことにした。

絵本一冊一冊を大切にしながら、絵本に親しんでほしいと思い、担任間で話し合い1～2か月ごとに絵本を9冊選んで置き、絵本の表示をし、その場所に片付けるようにした。片付けの時には表示の場所へ絵本を戻せるようになり、最近では1冊読むと絵本を戻して次の絵本を手にとって楽しむ姿も見られる。また、置いてある絵本の中からお気に入りの絵本ができ、同じ絵本を何度も繰り返し「もう1回。」と言って保育者に読んでもらい楽しむ子どももいる。

1～2か月おきに絵本コーナーの絵本の内容を子どもたちの興味や季節に合わせて替えた。沢山の本を置くのではなく厳選して置くことで、その中からお気に入りの本ができ、何度も繰り返し読むことで内容を覚えてじっくり楽しむことができた。また自分で読んだり、保育者の真似をして他児に読み聞かせしたりする姿が見られた。

貸し出し用の本を秋に整理し、シリーズ分けしたことがきっかけで、借りる頻度が増え嬉しく思った。保育者のちょっとした工夫や配慮が大切だと感じた。

絵本コーナーの棚は整理できたが、手作りの椅子や仕切り、天井など、子どもが落ち着いて過ごせるものを作りたかったがそこまでできなかった。「環境が人をつくる」ということを心に留めていきたい。

(1) - 3 挨拶を大切にする

①事例

挨拶を通して、相手と心を通わせ親しみが増し、共に過ごす生活が心地よいものになるよう4月からの取り組みの一つとして挨拶を大切にしたいと考えた。これまで0・1・2歳児の子どもという事もあり、朝夕の挨拶では「おはよう。」「ばいばい。」などと気軽に挨拶を交わしていた。まずは保育者が「おはようございます。」「さようなら。」と丁寧な言葉で挨拶を交わすようにしようとして話合った。温かく和やかに安心できる雰囲気の中で、明るく親しみをこめた挨拶を心がけた。

保育者が挨拶を意識して大切にすることで、初めの頃は挨拶しなかった子どもからも「おはようございます。」「さようなら。」と挨拶が返ってきたり、ふとした場面で保育者や友だちに対して「ありがとう。」と自然に言ったりできるようになってきた。保護者も送迎の際に子どもが挨拶しない時には「おはようは?」「ちゃんと、先生の顔見ていうんよ。」などと促す姿が見られる。

・散歩にて

散歩に出かけると、近所の方とすれ違うと積極的に「おはようございます。」と挨拶する姿が見られるようになった。近所の方がにこやかに挨拶を返してくれると、「あのな、おさんばいっきょんよ。」「何してるの?」「きしゃ、みたんでよ。」などと会話を楽しんだ。

近所の方からも「かわいいなあ。」と声をかけられ、握手やタッチをしたり、頭を撫でてもらったりした。なかには両手を伸ばし、抱っこを求める子どももいた。

③省察

私たちが意識して丁寧な言葉を使い挨拶を交わすようにすることで、自然と同じように挨拶できる子どもが見られるようになってきた。また、「ありがとう。」「ごめんなさい。」などと思いを伝える言葉もよく聞かれるようになった。保護者の方も、子どもに挨拶を促し、挨拶が身に付くように関わる姿がみられた。恥ずかしくて挨拶できない子どもには、決して無理強いせず、保育者と保護者が和やかな雰囲気の中で挨拶を交わす姿を見せる事を大切にしたい。

散歩に出かけた際には、挨拶をきっかけに地域の方と関わり触れ合う事もできた。地域の方との会話を楽しみ、温かいまなざしを受けることで、自分たちは無条件に愛され受け入れられる存在であることを肌で感じる事ができた。

挨拶を通して、人と関わる楽しさを経験し、愛されていると実感することで自己肯定感が育まれていく。挨拶を大切にすることは、子ども一人一人にとってこれからの人生がより豊かに過ごす事のできる第一歩につながっていくのだと感じた。

(1) - 4 ごっこ遊びの環境を充実する

① 事例

ブロックでよくアイスクリームを作る子どもがいたので、手作り玩具のアイスクリームを作りアイスクリーム屋さんごっこを楽しんだ。「いらっしやいませー。」「なにアイスがいいですか?」「いちごがいいです。」「サイドメニューです。」「しょうしょうおまちください。」「ありがとうございました。」などと言葉でやり取りしながら楽しむ姿がみられる。月齢の低い子どもも、友だちの様子をみて真似しようとし、保育者が一緒にお店屋さんやお客さんになってかかわる事で「ください。」「ビーぞ。」「ありがとう。」と簡単な言葉を使ってやり取りを楽しみ友だちとかかわる楽しさを経験することができた。

②省察

きりん組では片言から、二語文、ごっこ遊びでやりとりができる程度へと大きく言葉の習得が進む時期である。その為、子どもの発達状況に応じて遊びやかかわりを工夫することが大切だ。象徴機能が発達し、イメージする力が育って体験した出来事や絵本のお話をイメージとして再現できるようになり、ごっこ遊びが多く見られるようになるため、ごっこ遊びに注目し環境を充実させることにした。

まず玩具の棚を見直し、ままごとグッズを整理しつつでも出して楽しめるようにした。子どものその時その時の興味・関心に合わせて、その都度手作りの素材を用意した。アイス屋さんでは画用紙で作ったアイスクリーム、お医者さんごっこでは聴診器やナースキャップ・薬、パン屋さんごっこでは新聞紙と画用紙で作ったアンパンマンのパンなどを制作した。

保育者が子どもの興味に合わせた素材や手作り玩具を少し準備することで、どんどん遊びが広がり、子ども同士の関わりも深まった。子ども同士、同じイメージを共有しながら言葉でやりとりし遊ぶ姿が多く見られた。子どもの興味・関心に沿ったものをタイミングよく準備する環境作りの大切さを感じた。

(2) - 1 掲示板の活用

①事例

クラスだよりなどに載せ切れない写真がたくさんあり「もっと写真を見たい」という保護者からの声もあった。掲示板を活用し、その日の活動を写真メインにして、できるだけクラス全員が載るように配慮しながら作成するようにした。掲示してみると夕方明るい時間にお迎えに来た保

護者はじっくり見る事ができるが、お迎えが遅くなるとじっくりと掲示板を見る事ができない保護者もいることに気付いた。過去に掲示した写真も送迎時にいつでも見られるようにファイルに綴じていった。ホームページにもその都度写真を載せるようにし、クラスだよりでホームページに掲載している事を知らせた。

・雨上がりの散歩

ある日、雨上がりに長靴を履いて園庭を散歩した。その様子をドキュメントにして掲示した。Kさんが家庭で「今日お散歩したよ」と母親に話したが母親は「今日雨が降っていたのに散歩したのかな?」「何かの間違いかな?」と思ったと連絡帳に書いてきた。しかし、次の日お迎えに来たときにドキュメントを見て、雨上がりの散歩のドキュメントを見て、K君がこのことを言っていたんだと理解したと話してくれた。

②保護者の反応

【アンケート結果より】

- ・コメントも楽しく書いてくれてその時の状況がとても伝わる。たびたび更新してくれているので感心させられる。
- ・生活の様子がよく分かって嬉しい。
- ・「今日〇〇したん?」と子どもに聞くと、子どももその時のことを写真を見て思い出せるのでちゃんと会話できて楽しい。
- ・子どもの自然な笑顔の写真を見て、いつも安心させられる。
- ・保育園での生活はいつも見えないので、どんなことをしているのか知れていつも楽しみにしている。
- ・(子どもが) 過去掲示分のファイルも見たがっていた。
- ・園での子どもの生活がよく分かり、ありがたい。
- ・子どもとの話題も広がる。

③省察

掲示板を作った事でお迎えに来たときに保護者が掲示板を見て「今日こんなことしたの?」という会話をしたり、「お家で、今日保育園でしたことをたくさん話してくれました」と連絡帳に書いたりしてくれるようになった。また、「掲示板を作ってくれて嬉しいです」や「楽しみにしています」という声も何人かの保護者から聞く事ができた。

園での生活の様子を子どもたちはまだ十分に言葉で伝えられない分、写真を掲示することで理解してもらうことができた。写真に一言コメントを添える事で、子どものつぶやきやどんなことをしているか、保育者の思いを伝えるようにも取り組んだ。掲示板を活用した事はとても良かったと思う。忙しい時期(行事前)になると、伝えたいことがたくさんあるにもかかわらず、他の仕事に追われドキュメントを作成する事ができなかったのが反省点である。忙しい時期でも、最低週1回は掲示できるよう継続していきたい。

また、アンケート結果にもあるように、写真にうつる子どもの姿や表情を見るだけで保護者は安心感が持てたり、子どももその時のことを見て思い出せたりするので、親と子どもとの会話をつなげ、広げるきっかけにもなった。

保護者の立場から考えると、普段の園の様子が口頭や連絡ノートを通じてだけではなかなか十分に分からないと改めて感じた。「百聞は一見に如かず」で写真というツールを活用することはとても有効だと感じた。これからの課題としてはホームページへの掲載は、誰もが閲覧できる為、個人情報保護の関係で、保護者のみが閲覧できるようなシステム作りが必要と感じた。

(2) - 2 クラスだより「いいとこみつけた」コーナーを通して

①事例

保育園での一人一人の姿を紹介し、得意な事・好きな遊び・優しい姿などを紹介し、一人一人のいいところを伝えていきたいと思い、9月号から「いいとこみつけた」コーナーを開始したところ、保護者に好評だった。

②保護者の反応

【アンケート結果より】

- ・かわいくてすごくいいコーナーと思う。子どもの事をよく見てくださっているんだな

と感じる。

- ・我が子の番が来るのが楽しみ。自分の子どもが載った時はとても嬉しかった。
- ・ほかのお友だちのことも写真入りで子どもと一緒に見て「今日は〇〇ちゃんやなー」と会話も増えた。
- ・一人一人の良い所を見つけてくれるので親として嬉しい。
- ・お友だちが載っているのをみて子どもからも紹介してくれる。
- ・お友だち名前と顔が一致するので子どもと話がしやすくなり、会話の輪が広がった。
- ・周りの子と比べることなく一人一人のよいところを見つけようとしてくれるのがいいと思う。
- ・自分の子どもの意外な一面も知る事ができ、読むのが楽しかった。
- ・先生方が、子どもたちのことをよく見ていることがよく分かる。
- ・子どももこのコーナーは好きで、「読んで」と言ってくる。

③省察

保育者も毎月一人一人の子どもについて考え、いいところを文章にする事で改めて気付かされることもあった。担任間でも、一人の子どもの良いところや得意なことについて話し合う中で、自分が感じていなかったいいところにも気付くことができた。

また、アンケートをしてみて初めて、保護者はほかの子どもの顔と名前が一致してない人が多かったことに気付いた。「いいとこみつけた」コーナーで一人一人を紹介していくので、名前と顔が一致し、子どもと話がしやすくなり、子どもとお友だちの話ができ、会話のきっかけづくりにもつなげることができた。

保護者へ向けての発信だったが、このコーナーを作った事により親子でおたよりを見て楽しむことができた。子どもにとっては、一緒におたよりを見て楽しむひとは幸せな時間だと思うので、家庭でも親子で楽しく過ごしコミュニケーションをとる時間を作ることができたことを嬉しく感じた。

(2) — 3 巡回指導（連絡ノートや送迎の際の会話を通して）

①事例

Yさんは、言葉が遅く6月頃まで発語がなかった。

5月の個人懇談では、両親も言葉が遅い事を気にしており、心配している。また第一子という事もあり細かな所で気になる事や悩むことがあるようで、Yさんの事をとても大切に思う気持ちが伝わる。送迎は父親と祖父が多く、時々母親が来る。父親は社交的で送迎の際に子どもの様子について積極的に話してくれ、園での生活の様子を尋ねてくることもある。母親は内気な印象で、こちらから話しかけると少し返事が返ってくる。連絡ノートは毎日子どもの様子をこまめに記入してくれる。祖父は迎えがほとんどだが、いつも表情が固く話しかけても口数も少ない。

・巡回指導にて

6月頃から「あー、あー。」「うー、あー。」などの発語がよく聞かれるようになる。昨年度2月に耳鼻科を受診し、低い音が聞こえにくいとのこと。7月2日に、市の巡回指導がある。市の保健師、こどもの発達研究室の先生、言語聴覚士の方にYさんの事をみてもらう。理解はあるが言語表出が遅いのは、耳の聞こえが原因かもしれず、再度耳鼻科への受診を進められた。普段の生活の中でも聞こえてない言葉があるだろうとの事で具体的な援助の方法をアドバイスして頂く。アドバイスを参考に担任間でも話し合い、1対1で個別に近くで声をかけながら援助していくようにする。またゆっくり繰り返し繰り返し簡単な言葉で伝えることで、7月頃からは「せんせい」「ちょうだい」「どうぞ」などの言葉を模倣し、不明瞭ではあるが保育者が促すと話すようになる。

母親が迎えに来た際に、巡回指導でのことを直接伝え耳鼻科への受診を勧めると、「分かりました。行ってみます。」とのこと。

・7月中旬

絵本コーナーからよく絵本を手に取り保育者に持ってくる。「おかお ない ない」という絵本を気に入り、カエルが出てくるページをひらくと「あ（か）えるー。」と言う。保育者が驚き「すごい。かえるって言えたね。よく知ってるねえ。」と喜ぶと、何度も繰り返し読みたがり、保育者と何回も繰り返し読んではカエルのページで「あ（か）えるー。」と言って楽しんだ。後

日、朝の送りで父親に会った際にそのことを伝えたと父親も驚いており、翌日に早速その本を貸し出した。後日、連絡ノートで絵本を家庭で楽しんだ様子や、言葉が出始めたことに喜びと楽しさを感じた事を知らせてくださる。早速担任も嬉しく思う気持ちを記入し、送迎の際にも直接話し成長を喜び合う事ができた。

また、祖父が迎えの際にも少しずつ言葉が出てきた事やこちらの言っている事はよく理解していることなどを話をすると、「ああ、そうですか。これからいろいろ喋るようになるんかいな。」と笑顔で答えて下さる。「これから楽しみです。」と、成長を楽しみにする気持ちを共有することができた。

・ 8月～9月

8月に町外の耳鼻科を受診し、9月により詳しい検査をする事になる。9月13日に検査をし、右耳は問題なく左耳は中耳炎の可能性があり経過観察とのこと。

・ その後

両親からは時々連絡ノートを通じて食事の様子、トイレトレーニングの始め方、イヤイヤ期の悩みなどについて質問や相談を受ける。その都度、連絡ノートや送迎、行事に参加してくれた時の会話で、園での様子や保育者のかかわりを知らせたり、悩む気持ちに共感したり、アドバイスを行った。

Yさんは、少しずつ全体に指示したことについても他の子どもたちの動きを感じながら同じようにできる事が増えてきた。まだ、口数は少なく不明瞭ではあるが促すと名前を答えたり、「かして。」「ちょうだい。」などと保育者が間に入る事でやりとりしたりする場面も見られる。送迎の際に両親や祖父にその様子を伝えたと、とても嬉しそうであった。

②省察

母親とはほとんど会う機会がなく、話をすることも苦手な様子だったため、連絡ノートを通してのやりとりを中心に信頼関係を築くようにした。Yさんの成長に関して共通理解を図り、園と家庭で連携しながら育ちを支えていけるように、園での様子を詳しく知らせ、保育者の関わり方や援助の仕方もその中でさり気なく伝えるようにした。送迎の際にも、直接会話する中で両親や祖父に成長の様子やYさんの得意な事、いい所などを伝えるよう心がける事で、共に成長を喜び合う機会を持つことができた。

初めての子育てで悩むことや不安なこともあるが、子育てを楽しんでいると感じられるようにサポートをしていく事が私たち保育者の役目だと思う。そのためには、保護者の気持ちに寄り添い共感すること、共に成長を喜び合うことが大切である。連絡ノートや送迎、行事の際の会話の中で保育者が意図を持って支援していく事、日々のこうした何気ないかかわりの積み重ねが子どもの成長と保護者を支えていくことにつながるのではないだろうか。

また、巡回指導などで他の機関との連携を生かし、保護者と他の機関とをつなげることも子どもの健やかな成長を支えていくために必要な支援の一つであり保育者の役目だと思う。

(2) - 4 送迎の際の会話や連絡ノートを通して

①事例

保護者との信頼関係を築いていくために何ができるかを考え、まずは挨拶を大切にすることにした。そして挨拶に一言添えることで、何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけた。また、迎えの送り出しの際も「変わりありません」だけでなく、できるだけ一言エピソード（子どもの姿・良い所・活動内容など）を添えるように取り組んだ。子どもの良い所や成長を共に喜び合うことで子育ての楽しさを感じ、子育てへの意欲や自信を持つことができるように配慮した。連絡ノートも毎日の記入を大切にし、一人一人のその日の姿や成長の様子を具体的に丁寧に伝え、必要に応じて保護者の悩み相談なども受けた。

②保護者の反応

【アンケート結果より】

(連絡ノートについて)

- ・担任の先生が交代で書いてくださっているのが、違った目線から見た様子がよく分かり、いつも楽しみにしている。
- ・毎日丁寧に詳しく書いてくださって感謝している。
- ・体調面や食事中、トイレの様子をもう少し知りたい。

- ・どの先生もいつもていねいに書いていただき、園の様子がよく分かる。
- ・家庭でのエピソードや相談事も気兼ねなく書きやすい。
- ・午睡の終了時間(子どもが起きた時間)を書き加えていただけると、園でのリズムを把握しやすく、夜の寝かしつけも調整しやすい。

(送迎の際の会話について)

- ・話をする機会がある時はいつも親身になって話を聞いてくれ、聞いてもらうだけでも心が軽くなる。
- ・連絡帳に家であった出来事を書くとき送迎時に先生の方からそのことについて質問があり、詳しく話す機会を持つことが出来た。ささいなことでも気にかけてくださり、嬉しかった。
- ・担任の先生にアレルギーやアトピーについて相談できてよかった。
- ・次の保育園の事や、トイレの事、子どものかんしゃくの事など何でも話しやすく相談しやすかった。先生の考えや視点を知ること、家での対応の仕方など大変勉強になった。
- ・日頃なかなかコメントを書く事が出来ない分、必要な時には書く様にしている。たまにしか書かないコメントに対して、きちんと返答があるのはうれしかった。
- ・先生方、いつもていねいに対応してくださるので、とてもありがたく思っている。
- ・送迎時、とてもささいな事も話題にしてくださり、安心感がある。

③省察

(送迎の際の会話について)

挨拶だけでなくできるだけ一言エピソード(子どもの姿、つぶやき、活動内容等)を添えて話をするように心がけた。普段からちょっとした会話を積み重ねることで保育者と保護者の距離が近づき信頼関係を築いていくことができたのではないかと感じた。また子どものことだけでなく保護者のこと(髪型・服・体調など)についてもこちらから気付いたことを話すようにした。毎日仕事と育児に追われている保護者の方にとって、私たちとの会話でちょっとホッとしたり気分転換になったり、息抜きできる場になればという思いで、何でも気軽に話ができる雰囲気作りを大切にしてきた。アンケート結果では、「ささいなことも話題にすることで安心感があつた。」「何でも話しやすかった。」「聞いてくれるだけで心が軽くなった。」などの感想があり大変嬉しく感じた。

(連絡ノートについて)

年間を通じて、連絡ノートを通して子育ての悩み相談をよく受けた。担任間でその都度、相談内容や子どもの様子やクラスでののかかわり方などを話し合い対応した。また共通理解を持って保護者へのかかわりや子どもへの援助を行えるようにするため、担任間の連携を密に行うようにした。送迎の際には相談のあった保護者にはこちらから声をかけ、できるだけ直接話をするように心がけた。直接話をする事で、ノートからだけでは受け止めきれなかったことが分かったり、こちらの十分伝えきれなかったことを丁寧に伝えたりする事ができた。

これまでは担当の子どもの連絡ノートには1年間通して一人の担任が記入していたが、クラスにも慣れた秋頃から、担任が交代で書くようにした。いろいろな目線から見た子どもの姿や成長の様子を伝える事ができ、保護者からも毎日楽しみにしているとの声が聞かれた。

反省点としては、「体調面や食事の事をもう少し知りたい」との意見があり、つつい子ども遊びの様子・友だちとのかかわりに重点をおいてしまいがちだったことに気づいた。体調・食事・トイレトレーニングの事についてもバランスよく様子が分かるように記入していきたい。

(2) - 5 保育園にできること

①事例

継続児のKさんは前年度から9時までに登園できない日が多く、遅い時は11時頃になる事もある。父親が送迎しておりKさんが車になかなか乗らず出発できないようだ。園の駐車場に到着しても、保育室に入るまで時間がかかる。夕方の降園時も車に乗りたがらず、園庭や駐車場で遊んでいる。度々保育者が車まで一緒に行き、乗せるのを手伝う。登園時間が遅いので、園で遊ぶ時間がほばない。他児と関わる時間も少ない。自我が強く、自分の思い通りにしようとする。自分の思いが通らないと泣いてパニックになる事もある。父親の話を聞こうとせずに、好き勝手に行動する。父親が自分の思い通りにしてくれないと泣いて怒る。遅く登園した日は機嫌が悪い事が多く、気持ちを切り替えるまでに時間がかかる。

園ではある程度の決められた時間や決められたルールを守り集団生活を送っている。時々、自分のしたい事に没頭する事もあるが保育者が声をかけると素直に聞き入れる。

KさんはMさんと仲がよく2人で遊ぶ事が多い。秋頃からは他児とのかかわりも少しずつ見られるようになってきた。クラス全員の名前を覚えており、他児に興味を示している。

・保護者の姿

父親が送迎をしており、Kさんの言動に振り回されている。父親はできる限りKさんの要求を聞いてあげようとしている。5月の個人懇談で父親と話した時に、Kさんの行動にイライラしながらも、怒る事はなく耐えている事を話してくれた。時々父親の機嫌が悪い時がある。母親は連絡ノートには毎日記入があり、主に連絡ノートを通して担任とのやり取りを行っている。送迎する事はなく、母親は登園時間が遅い事を把握してないようだ。行事前や行事の都合により父親に何度か、9時半までに登園するようお願いをした。2、3日は時間通りに登園してくれたが、しばらくたつと遅い時間の登園に戻っていた。その後もクラスだよりや掲示版で登園時間をお願いを掲示した。

・保育園での対応

9時半までに登園してもらうように何度かお願いしたが継続することが難しかった。何度もお願いするのは、父親のプレッシャーに繋がり負担をかけてしまうのではないかと考えた。担任間で話し合い、父親に求めるのではなく、本児たちが早く登園しようと思える環境を作ることにした。

そこで、園に早く来ると楽しい事がたくさんある事を伝えた。お当番活動を楽しみにしているので、早く登園できた日はKさんにお当番をしてもらった。そのことが楽しい経験になり家庭でも話していたようだ。また絵本が好きなので、Kさんの好きな絵本（ノントンがんばるもん）を見つけ他児を含めて読み聞かせを行った。他児と絵を見ながら「イタイイタイやな」「ちゅうしゃ、いや」など会話をする姿も見られてきた。様々な遊びを用意し、マナー化しないように気を付けた。指先を使う遊びが好きなので、ひも通しやパズルなどを用意した。また、生き物が好きなので、クラスで飼育していたカブトムシの幼虫の世話をしてもらった。Kさんも友だちと順番に霧吹きで土を湿らせ世話をする姿が見られた。降園前に「明日もお世話お願いね。」と声をかけ、迎えに来た父親にもそのことを伝える。登園してくるとなかなか部屋に入らないことが多いが、「カブトムシの赤ちゃんも待ってたよ。」と飼育ケースを出すとすぐに部屋に入り世話をする姿が見られた。父親もにこやかに「お世話頑張ってたよ。」と手を振り見送っていた。子ども自身が、保育園での生活を楽しみに、早く行きたいと思えるような援助を工夫した。

③省察

保育園に通う親子のありのままの姿を受け入れていく事が何より大切だと学んだ。何か問題があると、何でもすぐに家庭に改善を求めるのではなく、子どもにとって園での生活がより良いものとなり、保護者にとっての負担を軽減できるよう、様々な工夫をしてサポートしていくことが必要である。子どもの好きな遊びを知り、興味・関心に合わせた環境を整えること、送迎の際の会話や普段の保育を通して保護者の方と信頼関係を築いていくこと、子どもや保護者に対してのかかわりや声かけに意図を持って接することなど、一つ一つは小さなことである。しかし、それが何より大切であり、毎日継続して親子に接することは保育園としてできる最大の支援である。

2019 年人権研究（調理）

1. 園の実態 0 歳児 16 名 1 歳児 27 名 ② 2 歳児 11 名 計 54 名

2. 研究テーマ (1) 心を育む豊かな言葉かけ
(2) 保育の見える化

3. 研究内容

(1) 心を育む豊かな言葉かけ	
研究テーマ 設定の理由	調理職員が挨拶など言葉がけすることで、子どもとかかわる事が増え、食に関心をもってもらえる。食材や調理する人への感謝の気持ちを育むことにつながる。(いただきます、ごちそうさまなど) 園生活の中で食に関わる体験を重ね、食べる事を楽しみ食事を楽しみ合う子どもに成長していくことの期待。
具体的な 取り組みや 方法	・調理している時に、朝の挨拶から始まり、給食の献立についての話など子どもに声かけをしていく。月に 2 回、栄養士、調理師が各クラスに食事の様子を見に行く。うさぎ、きりん組と一緒に食事をし、子どもとの会話を楽しむ。 ・アレルギー児に対して保護者との面談などで家庭での食事の様子を聞き、保護者の気持ちに寄り沿った言葉がけを心がける。
(2) 保育の見える化	
研究テーマ 設定の理由	調理室から職員や食材、調理過程が子どもたちに見えることで、自然の恵みとしての食材や食の循環、環境への意識が強まる。 乳幼児期にふさわしい食生活の展開、アレルギー対応食等、子ども一人一人の成長に合わせ保護者とも連携を図り、適切な対応をする。
具体的な 取り組みや 方法	・調理室での調理風景を子どもたちに見てもらう。担任の先生と相談しながら、後半に年 1, 2 回、ひよこ組がきりん組に食事をしに来る。 ・献立を写真に撮り、お迎えに来られなかった保護者も常に献立が見られるようファイルに閉じる。(幼児食・離乳食・アレルギー対応食) ・園で栽培する野菜の成長過程を写真で記録に残す。今年度は初めて、スイカ、中庭でミニトマトを栽培し、成長していく過程を子どもたちに見てもらう。子どもたちと収穫し、収穫した野菜を給食の献立に取り入れ提供する。 ・毎月の献立とは別に、給食だよりを年に 2 回発行する。1 回目を 6 月初めに発行したい。(朝食の大切さ、給食参観の様子などの写真)

4. クラスのめざす子ども像

- ・食を通じて健康な身体と心を育てる
- ・食事をすることを楽しみ、食に関して興味をもつ

5. 実践事例

(1) きりん組での子どもとの会話

①事例

調理室と隣接するきりん組の子どもたちの給食の様子を毎日見る。
園内で「調理の先生」と声をかけてくれ、「今日のご飯は何?」「これは何?」と尋ねてくれる。食事中に、子ども同士で「幸せ」と言い合う姿も見られる。
うさぎ組は週 1 回程度、ひよこ、りす組は月に 1, 2 回程度食事の摂取状況等を見に行き言葉掛けをする。

②アンケート結果より

アンケート調査にて、調理職員が各クラスへ行き、状況を見ていることを知った保護者もあり、担任だけでなく調理職員も食育活動にかかわっていることを知って頂けた。

③省察

調理担当者として子どもたちに食に関して食を営む力の育成を図り、健康な生活の基本となる食育を推進していきたい。そこで、提供した食事の摂取法や摂取量、また園児の咀嚼状況や嚥下機能の発達状況等を実際に見て確認することにした。子どもたちが疑問に思うことを、直接調理職員に尋ねてくれることも多くなり、私たちも子どもたちとかかわる時間が増えた。和やかな雰囲気の中、保育者や他の子どもと食べる喜びや楽しみを味わい、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちや給食を楽しみにする気持ちが感じられた。

(2) 心を育む豊かな言葉がけや子どもとの会話

①事例

かぼちゃのおかずを提供したとき、先生が「かぼちゃを食べるとかぼちゃが喜んでいるよ、ニコニコになるよ」と言葉がけをしたら、かぼちゃが苦手な子どもが「ぼくのかぼちゃは泣きよる」という会話があった。
給食を全部食べられた子どもが、「お皿がピカピカになったよ」と嬉しそうに調理職員にお皿を見せる。
ごちそうさまといった後、「調理の先生ありがとう」と言う。

②アンケート結果より

- ・「調理の先生が」という言葉を時々聞く。「今日、調理の先生にありがとう言うた」とか、「おいしかった」という言葉を時々聞く。
- ・食事の時にパパ、ママありがとうと感謝の気持ちを伝えてくれています。
- ・食事の前にお祈りを大きな声でしてくれる時もあります。「いただきます」「ごちそうさまでした」がきちんと言えるようになり嬉しいです。
- ・地元の物や国産の物を使って欲しい。
- ・おやつで野菜を食べさせられないか。

③省察

アンケート結果からも、食事に関して子どもたちが興味を持ち、「食べられたよ」「おいしかったよ」「今日ご飯を作ってくれてありがとう」など自分の想いを言葉で表現しようとしていることに作り手として嬉しい気持ちになり、仕事に対しての意欲に繋がり、嬉しい気持ちで毎日の給食づくりをすることができた。栽培に関しても、種まきや水やりをし、「大きくなあれ！大きくなあれ！」と子どもたちが声をかけ、成長する過程を見ることで食材に関心を持ち、収穫する楽しみや喜びが育ったのではないかと。トウモロコシの皮むきやすいかの栽培をすることによって、季節感を味わい自然の恵みに感謝する気持ちを今後も育てていきたい。

(3) 園の取り組みと保護者の反応

①事例

お迎えに来た保護者が「今日の給食」を見られるように玄関に展示している。また、毎日の給食を写真に撮りファイルに綴じ自由に見られるようにしている。展示に興味深く見ている保護者にこれまでの給食もファイルに綴じて玄関に設置していることを伝える。
ハロウィンの行事食では、工夫されていて見ていて楽しくなりましたとの声が連絡帳で寄せられた。
家では食べられなかったトマトを、園では食べることが出来たとの声もあった。
偏食がある子どもに対して、担任が連絡帳を通じて園で食べているおやつを伝え、摂取量や状況を細かく伝えている。栄養士や調理師の研修を通じて得た情報、レシピ集の発行。体調不良、アレルギーなど一人一人の子どもの心身の状態に応じ、個別に対応、アレルギー児の保護者との面談を実施する。
年に2回アンケートを実施し、食に関しての悩みなどを把握するようにしている。

②アンケート結果より

- ・子どもたちの食事の様子(写真)が知りたい。

- ・給食やおやつのレシピが知りたい。
- ・献立の組み合わせ、調理の仕方や量、具材の大きさを参考にしている。
- ・誕生会などの行事食を参考にしている。
- ・献立と同じものを家でも作っている。
- ・茶碗蒸しとミートローフをチャレンジしてみたい。幽庵焼きを作ってみた。
- ・調理の先生に子どもがよく食べたマーボー豆腐のレシピを教えてくださいました。好き嫌いが多いので困っていたのですごく助かった。
- ・まだ話することは難しいが、親から献立の展示を見て「全部食べた？」や「おいしかった？」など話かけるようにしている。
- ・給食の展示を見て、「おいしそうだね」「食べたよ」「おいしかった」と親子で話をしている。

③省察

食事に関して親子でコミュニケーションをとる時間が増え、絆が深まっているのではないか。

園で出している給食(子どもの成長に合わせて小さくカット、トマトの湯むきなど)が一人一人に対応した食事を提供していることに繋がっているんだと、アンケートを通じて感じられた。行事食なども参考に家庭で作ってくださり、子どもの為に食事を工夫している家庭が多く、食事の時間を大切にしていることが分かった。

園での食事から家庭の食事でも豊かな心を育める食事に繋がって欲しい。

子どもの食事に対しては関心が高く、要望なども具体的にたくさん書いていただいた。今回のアンケートでの要望にこたえていくことが今後の課題だと思う。

子どもたちの健やかな身体つくりのために、子どもたちと一緒に、また保護者の方の声を大切に、園からも情報を発信し、安全第一に給食を提供していきたい。

2019年12月20日

保護者の皆様

人権教育(保育)の取り組みについて(お願い)

社会福祉法人 鴨島ひかり会
鴨島ひかり乳幼児保育園

園長 樽見 義

今年もあとわずかとなりました。日頃は当園の行事への参加をはじめ保育活動全般にわたりご支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、吉野川市就学前教育研究会の2018年度会合で2020年10月に開催される第71回徳島県人権教育研究大会第10分科会で当園が保育の取り組みを発表することが決まりました。第10分科会は「人権地域ネットワーク」をテーマとし「人権尊重社会を実現するために、学校・家庭・地域社会が密接な連携を図る中で、人権地域ネットワークの構築をどのように推進しているか。」を主題として討議します。

私たちは一年ほど前からこの取り組みを始めました。最初は0歳から3歳未満児を受け入れる当園の保育における人権教育とは何か、地域ネットワークの地域とは何か、を考える話し合いから始めました。話し合いを通して得られた方針は、「0歳から3歳は言葉を獲得する大事な時期であるから、保育者からの言葉掛けを大切にしたい。私たちに一番近い地域のひとつは保護者であるとの認識から、保護者(地域)に対して保育をオープンにしていこう。」ということでした。これにより研究テーマを(1)心を育む豊かな言葉がけ(2)保育の見える化に決め、4つのクラスと調理の5グループで取り組みを進めていくことにしました。

2019年4月から5つのグループでは「クラスのめざす子ども像」をさだめ、保育や取り組みを見直すとともに、連絡帳の書き方やドキュメンテーションの作成などにも取り組んできました。しかし、私たちが話し合いに費やした時間の割には行動につながっていないのではないかと反省しています。

11月末には園内の研修会で、この取り組みの中間発表を行いました。この中で職員の多くは「私たちの取り組みは子ども達や保護者の方にどのように受け入れられているのだろう。」との思いを持っています。好意的な反応を期待してはなりません。新たな課題に気づけば1年足らずとなったこれからでも新しい取り組みができるのではないかと思います。

ひとつの方法としてクラス単位のアンケートを1月に実施したいと検討しています。たくさんのデータを数値化するのではなく園児と保護者の顔が見えるアンケートにしたいと思っています。お手間をかけますがよろしくお願いします。そのほか、連絡帳への一言や登降園時のつぶやきでも結構です。私たちはアンテナを大きく、高くして情報をキャッチしようとしていますので御協力をお願いします。

ひよこ組アンケート集計結果

2020年1月実施

配布10部 回収9部 回収率 90%

ひよこぐみでは「心もからだもたくましい子ども」「自分も友だちも大切にする子ども」「心豊かで思いやりのある子ども」の3つを、クラスのめざす子ども像に掲げて日々の保育を行っています。お預かりしているお子さまが日々安心して健やかに過ごし、また保護者の方が安心して預けられるよう担任間で話し合い、連携を図りながら進めています。

保護者の方と相互理解を深め、お子さまの育ちを支えていくために、保護者の方の率直なお気持ちをお聞かせ頂ければと思っています。お忙しい中大変恐縮ではありますが、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ①日々の保育の内容を保護者の方と共有したいという思いから、ドキュメンテーション（クラス入り口の掲示）を不定期で貼り出しています。この中で、印象に残っているものがありましたら○をつけてください。（複数可）

5月 避難訓練	1人
6月 花の日礼拝	2人
7月 とうもろこしの皮むきやスイカ	4人
9月 敬老参観	4人
10月 菊人形へ散歩	4人
11月 ハロウィン	3人
12月 遊びの様子	6人
1月 布おもちゃ遊び	3人

↳ドキュメンテーションについてどう思われますか？

また、ドキュメンテーションを通してお子さんとの会話、コミュニケーションに繋がった等のエピソードがありましたらお書きください。

- ・毎日見ている。園での様子がわかっておもしろい。欲しいと思う写真もある。
- ・その時どういう風に過ごせていたのかよく分かるのでとても良い。
- ・園でのイメージがわきやすく、毎回とても楽しみ。
- ・保育園での日常の様子が知れて、とてもほっこりする。
- ・家庭では見ることの出来ない一面を見ることが出来るので、嬉しい。
- ・園での様子を知ることが出来て嬉しい。夕飯の時に「こんなことしてたよ」と家族で会話することもある。
- ・園での様子が少しでも見られて良い。

- ②子育て中の保護者の方の、ヒントになることが少しでもあればいいなという思いから、ひよこぐみだより「大丈夫ですよお母さん」コーナー（現 子育て知恵ぶくろ）を掲載しています。ご覧になっていますか？

㊦ 読んでいる	7人
㊩ 時々読んでいる	0人
㊧ 読んでいない	2人

5月号	保育園に預けるときに泣くので辛い
7月号	食ベムラについて
9月号	何でも口に入れるので困る。中毒110番
11月号	後追いが始まり困る
1月号	遊びのパターン化について

↳この中で、印象に残っている、ヒントになった掲載はありますか？

5月号	2人
7月号	2人
9月号	2人
11月号	2人
1月号	2人

- ・すべて参考になっている

また、「大丈夫ですよお母さんコーナー」についてどう思われますか？

- ・不安が解消される方も居ると思うので良いと思う。
- ・とても分かり易く勉強になる。
- ・ちょうどその時期に悩んでいたことも有り、こうすれば良いのだと参考になった。
- ・これからも続けてほしい。
- ・とても参考になっている。
- ・タイムリーなコラムなので参考にさせてもらっている。あまり大丈夫ですよと言われることもなく不安な事も多いので続けて欲しい。

③1歳を迎えたお子さまに、毎週木曜に絵本の貸し出しを行っています。絶対に活用して欲しいという意図はなく、保護者の方の心や時間に余裕のある時に、お子さまとの時間を共有するツールとして活用して貰えと良いなという思いから貸し出しを行っています、どう思われますか？

- ・あまり読めていない。
- ・どんな本を貸してくれるのかたのしみ。
- ・続けて欲しい。
- ・色んな本に出会えるのでありがたい。木曜日に貸してくれるので週末にゆっくり読んであげられる。
- ・自分で選ばないような物もあったりして、幅も広がりとても良い取り組み。
- ・読み聞かせ好きなのでとても良い。
- ・今まで絵本にあまり興味を待たなかったが、楽しそうに見ている。
- ・とても良い取り組み
- ・なかなかゆっくり絵本を読んであげる機会がないので良いと思う。

また、絵本の読み聞かせを通してお子さまの成長や気づきがありましたらお書きください。

- ・読んであげるとニコニコして聞いてくれる。
- ・ぐずっていても絵本を読むと泣き止み、笑ったり喜んだり色々な表情をしてくれる。
- ・本をパタパタしたり、ニコニコしたり、興味が出てきたと思う。
- ・絵を指さし、「ニャンニャン」や「あった」など言葉が増えている。
- ・まだじっとは聞けないが、興味はもってくれている様子。

④保育園に訪れるすべての方に気持ち良く過ごしてもらいたいという思いから、明るくあたたかな対応を心がけています。担任保育士の対応に、あたたかさを感じますか？

- | | | |
|---|--------------|----|
| ア | 感じる | 9人 |
| イ | どちらかと言えば感じる | 0人 |
| ウ | どちらかと言えば感じない | 0人 |
| エ | 感じない | 0人 |

また具体的なエピソードや、お気づきの点がありましたらお書きください

- ・いつも明るく園での様子を教えてくれる。
- ・病気の後はとても心配して下さって、熱性痙攣の対応なども詳しく確認して下さい。安心。いつ見ても息子は楽しそうに安心して働くことが出来ている。
- ・ささいなことでも伝えてくれる。

⑤担任保育者は、お子さんのことを理解し、愛情豊かに保育していると感じますか？

- | | | |
|---|--------------|----|
| ア | 感じる | 9人 |
| イ | どちらかと言えば感じる | 0人 |
| ウ | どちらかと言えば感じない | 0人 |
| エ | 感じない | 0人 |

また具体的なエピソードや、お気づきの点がありましたらお書きください

- ・連絡帳で細かく様子を書いてくれる。
- ・送ったときに先生を見たらニコニコしている。
- ・昼間のエピソードをお話ししてくれたり、その日の様子を詳しく教えていただいて

ありがたい。あまり息子が泣かずに登園できるのも、先生方のことを好きで安心して
いるからだと思う。

- ・連絡帳のコメントや送迎時の子どもの反応で大事にされていると感じる。
- ・何よりも園につくとずっと教室に入っていくので、園が楽しいんだと感じる。

⑥お子さんの事について、担任と話したり、相談したりできますか？

- | | | |
|---|--------------|----|
| ア | できる | 6人 |
| イ | どちらかと言えばできる | 3人 |
| ウ | どちらかと言えばできない | 0人 |
| エ | できない | 0人 |

⑦園に対してのご意見や、今後の保育向上のため改善したらよいと思われることをご自由
にお書きください。

- ・いつもよくしてくれている。
- ・いつもよくして下さっている。担任の先生以外にも温かさを感じている。

りす組アンケート集計結果

2020年1月実施

アンケート配布 13部 回収 12部 回収率 92.3%

私たちりすぐみは、いつも子どもたちが笑顔で穏やかな気持ちで過ごせるような保育を心がけています。乳幼児期は成長発達が最も著しい大切な時期です。私たち保育者はその大切な時期の子どもたちと、目に見えない心の育ちと愛着を築いていくことを常に心がけて保育しています。月齢に合わせた遊びを考えるなかで、五感の育ちに良いとされる感触遊びや絵本を保育の中に取り入れることで、新しい発見や子どもの気づきに学ぶこともたくさんありました。子どもたちとのやり取りを保護者の方とも共有し、成長を共に喜べる機会として連絡ノートやドキュメンテーションを活用したり、毎月のクラスだよりでは、子どもたちの様子を伝えることに加えて、月齢や発達に沿ったお知らせや悩みなどに少しでも役立ててもらえるようなコーナーを担当間でいろいろと話し合いを重ね作ってきました。このような私たちの思いや取り組み・日頃の保育について、保護者の皆様のご意見を聞かせていただくことで今後の保育に生かしていきたいと思います。記述式でお忙しい中ご面倒をおかけしますが、アンケートにご協力をお願いいたします。

1. 五感の育ちによいとされる感触あそびをたくさん取り入れてきました。下記の中で印象に残った感触あそびはありましたか？またおうちで取り入れた遊びやその時の子どもの姿やエピソードがあれば教えてください。

- ① クラッカーテープ
- ② 「すいかを触って」や「とうもろこしの皮むき」
- ③ 手作りタンポを使っの「絵の具遊び」
- ④ 絵の具を使った「ペイントあそび」
- ⑤ 小麦粉を使った「粘土あそび」

- ・ ②
- ・ ③④：家ではクレヨンですが色を混ぜたり好きに色付けしたり回数を増やすたびに、塗り方や色の使い方も多様になっていました。
- ・ ⑤：こどもが怖がって遊ばなかったと聞いたので、家で米粉粘土を試したらやはりいやがっていました。でもなぜかスライムはいけました。
- ・ ⑤：祖母と一緒にパン作りをするきっかけになりました。
- ・ ⑤：入口に写真があって、触って遊ぶ事も楽しいし大切なことだと思いました。まだ、家ではしていませんが、今後取り入れていきたいなと思いました。
- ・ ⑤：家でも小麦粉粘土を買い遊んでいる。集中して、ちぎったり、にぎったりしている。
- ・ ⑤：家でやってみたいと思いながらまだできていません。
- ・ 粘土あそびや感触あそびで家でも楽しそうにしています。
- ・ これから粘土あそびは取り入れていきたいと思います。
- ・ まだ家ではやったことがないので、まだできたらやってみたいと思います。

2. 保護者の方と共に子どもたちの育ちを見守りたいという目標でクラスをスタートしました。担任間でいろいろと話し合いを重ね、月齢に合わせたお知らせや月齢に沿った悩みに少しでも役立ててもらうため、〴〵ダメ！はいりません、コーナーを不定期にお届けしてきました。下記の中で参考になったもの、また心の変化など何でもかまいませんので感じたことをお聞かせください。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ① 5月 小さなものは気をつけて | ⑥ 10月 〴〵ダメ！はいりません、食事 |
| ② 6月 どうして噛みつきがおこるの？ | ⑦ 11月 〴〵ダメ！はいりません、自立の芽生え |
| ③ 7月 おすすめ絵本 | ⑧ 12月 子どもたちが好きな遊び |
| ④ 8月 子どもの発達段階の一つとして | ⑨ 1月 〴〵ダメ！はいりません、イヤイヤ期 |
| ⑤ 9月 感触遊び | |

- ・ ⑥：好き嫌い（特に野菜）がはげしく悩んでいましたが、食べないことよりも、「楽しく食事をする」ことを心がけるようになりました。
- ・ ⑥⑦：ふだんから私がよく「これはダメ」と言っている声かけが、自分でも言うのが嫌にな

っていたタイミングで⑥⑦のような文章を読ませて頂きました。その文章を読んで、なんだか胸がスッキリしました。

- ・⑦⑨：自我が芽生えてくるといたずらをしたり、どうしようと思うことをしてつい「ダメ」と言ってしまうがちになります。そういう時にどういった時期で、どういう対応が必要になるのかといったことの参考になりました。
- ・⑨：イヤイヤ期は何人育ててもやはり母は疲れます。でも紙に文字としてなんでなのか…どうすれば良いかとかを見るとホッとします。リビングにおたよりを見やすいところにはってあるのでいつも見えています。
- ・⑨：つつい「ダメ」と言ってしまうがちなので、おたよりで読むときづかされます。
- ・⑨イヤイヤ期の子どもへの接し方は本当にしんどい時がありますが、このようなお知らせを読み知識を身につけることで、少しずつ対応に慣れていくことができると思います。イヤイヤ期…親でもイヤになりますが（笑）先生方に相談しながら関わっていきたいと思います。
- ・⑨：イヤイヤ期は成長過程ではおこる事とは頭ではわかっていますが、実際時期がくるとイライラして怒ってしまうことがあります。言っている事は理解できるので、きちんと説明する事が大事なんだなぁと思いました。
- ・おすすめ絵本のおかげで家でも本に興味をもって「これは？これは？」と色々聞いてくれます。ダメはいりませんでは、自分の意識づけになりました。
- ・「ダメはいりません」いつも参考にさせて頂いています。食事の食べムラだったり、せっかく味付け等工夫して作った食事をイヤと拒否されるとつついダメと言いがちでしたが、子供の成長段階の一つと思うと見守ってあげる余裕ができました。

3. 園での子どもたちの様子をドキュメンテーションとして入り口に貼りだしていますが、印象に残ったドキュメンテーションと理由を教えてください。

- ①花の日礼拝
- ②避難経路確認
- ③朝の集まり・食育・クラッカーテープ(感触遊び)
- ④感触遊び(タンポ遊び)とうもろこしの皮むきやスイカに触れる様子
- ⑤敬老交流会
- ⑥市・防災訓練
- ⑦菊人形

- ・③：自宅では実施できない（しない）ようなことをして頂き、その子供の表を見ることができました。
- ・④：食べ物に興味を持つ良いきっかけになりそうだなと思いました。
- ・⑤：子どもと祖母の様子が見られてよかった。
- ・⑤：楽しそうでした。
- ・⑤：一緒に参加したから
- ・⑤⑦：行事の時にどういったことをして、どんな表情をしていたのかを知ることができるので、様子がわかって良かったです。
- ・防災訓練を定期的に取り入れて頂ける事は安心します。災害時に理解できない年の子供に日頃から保育の一つとして取り入れてもらう事で、スムーズに指示や誘導できると思いました。
- ・⑥：母として子供のピンチは怖いので訓練して下さっていたら安心できます。おんぶや抱っこして1人の先生が2人つれていたりするのを見ると大変そうだなと思ってしまい印象に残りました。
- ・感触遊び。子供にとってはふしぎで新鮮でおもしろいと思います。
- ・⑦：お散歩車(?)で菊人形を見に連れていってもらっていていいなと思いました。去年は他県で園児がまきこまれた事故がありましたが、先生方もお散歩コースの安全の確認をしてくださるなどの対応をすぐにとっていただき安心しました。
- ・入園して数ヶ月なのでわかりませんが、毎月のように子どもたちの様子がわかっていいと思います。
- ・朝夕の送迎の機会が少なく、ほとんど見る事ができていません。すみません。

4. お子さんとのコミュニケーションのひとつとして絵本を活用してほしいと願い、絵本貸し出しを行っています。ご家庭での絵本の読み聞かせを通してのお子さんの反応や印象に残ったエピソードがあればお聞かせください。

- ・この本を読んでほしいと本を自分でもってきてくれます。箱の中に入る本では、実際に段ボールの箱に入ったりして楽しく体験することができました。
- ・電車に興味をもっているので、電車の絵本によく反応していました。「きた、きたー！」のセリフで、この言葉が言えるようになりました。
- ・好きな絵本の時は何度もその本を持ってきて、同じページを読んでと訴えてくる時もあります。始めは絵本に興味がなかったのですが、自分が読んでほしい時やページをめくって見たりするようになりました。
- ・毎週、別の絵本を貸してもらえるので子供はあきずに楽しく読んでいます。もちろん好き嫌いはありますが、子供が好きなものが何かわかるので参考になります。
- ・園から絵本を貸し出ししてくれるので、改めて本の大切さを知り、リビングに本棚を作っている本にふれるように心がけるようになりました。よんであげると、「ガオー」「ニャー」「ワン」とか言った言葉を真似しています。
- ・保育園に行くまでは、あまり絵本を読んであげた事がなく、あまり興味もないんだらうなと勝手に決めつけていたのですが、園で貸してくれた本は、子供がカバンから自分で出したりしているので、読んであげるとじーっと聞いています。
- ・自分の気に入っている絵本は持ってきて、身振り手振りで色々たまねしたりしています。絵本をきっかけに覚えた言葉もあります。
- ・何度も読んでいると、語尾と一緒に言うこともあった。
- ・絵本を通して、絵本の読み聞かせをすることで忙しい中でも数分だけでも、「親子の時間」をもてたように思います。絵本を見て指さして、動物の名前を子どもがいう姿を見て「こんなことをもう覚えているんだ」と発見できました。
- ・好きな本や読んでほしい本を親のところへ持ってくるようになりました。また、「いないいないばあ」「だるまさん」シリーズ「おべんとうバス」は一緒に読んでくれます。お兄ちゃんと違った反応があってもおもしろいです。
- ・絵本を自分からもってきて興味あるページを開けて教えてくれました。
- ・絵本を読んでいると急に笑い出しました。

5. 送迎時や連絡帳などで、子どもたちの園でのようすをわかりやすく伝えることができているですか？ご意見をお聞かせください。

- ・園でどんな事をしたかがわかるので帰って来たら子供と話すきっかけになっています。
- ・よく伝わっています。連絡帳だけでは伝わりきらない遊びの様子などを直接お聞きすることができたりして、嬉しいです。
- ・いつも夫婦でノートを読んで、何をしたのか見るのを楽しみにしています。その日の様子を書いてくれているので、少し気になることを書くと返答してくれるので、とてもわかりやすいです。
- ・何をして遊んだのか、どんなお話をしたのか細かく書いてくれているので、園での様子はよくわかります。
- ・子供の1日の始まりから終わりまで毎日詳しくかいて下さって本当に感謝しかないです。何人分のも書くのに、いつも丁寧で読むのが楽しみです。先生の書いてくださる言葉にいつもすぐわれています！！
- ・毎日迎えに行くと「今日はこんな事をしていました」など、毎回違う事を話してくれるので、それを聞くのが楽しみです。
- ・連絡帳いつもたくさん書いていただいております、とても嬉しいです。送迎時は園での様子をもう少し聞けると嬉しいです。
- ・園での様子がよく分かり安心した。
- ・とてもわかりやすく伝えて頂いています。
- ・いつも園での様子がよく伝わるようにノートを書いてくださっていて感謝しています。熱があつた時なども、細かく記録してくださっているのも助かります。
- ・いつも丁寧に書いていただきうれしいです。
- ・子どもの体調や園でどういう感じかを伝えてもらっているから子どもの様子がわかりやすい

6. 私たち保育者が子どもたちのことを理解し、大切に保育していると感じますか？今後の保育向上のため、リアルなお気持ちをお聞かせください。

- ・ささいな事でも話をしてくれるので、子供を安心してあずける事ができています。いつもありがとうございます。
- ・連絡帳や送迎時に詳しく様子を伝えて下さるので、よく見て下さっていると感じています。他の先生方との連携もよくして下さっていると思います。
- ・子供も親と離れて寂しいのは変わりないと思いますが、帰ってから先生のことやお友だちの名前を嬉しそうに話しているので、大切に見てくれているのかなと感じます。
- ・先生方にはいつも子供と同じ目線で接して頂き、子供もいつも笑顔で本当に感謝しています。家では家事等の関係で、いつも同じ目線では接してあげられない時もあるので、これからも笑顔で子供と接して頂けるとありがたいです。
- ・よくニュースで「しつけ」と言って手をあげたりしているのを聞いていたので保育園に預けるのが不安で…。でも、2人、3人目になると預けないと働けないので初めて預けて園がひかりでした。もっと早く預けていたら良かったと思える程、すごく大切にしてくれていて今では安心と感謝しかありません。
- ・子供の細かい成長までよく見てくれて、よく知ってくれているなと思います。良い先生達だと思うので、安心してお任せしています。
- ・子供にいつも優しく声をかけして下さっているなという印象です。
- ・子供の日々の変化にいてねいに対応して頂いてとても安心した。子供だけでなく私の体調など、子育てしている中での不安なども聞いていただきありがたく思っています。
- ・保育園に行くときや着いたときに子供の表情が生き生きしているのを見て、保育園を楽しんでいるなと思いました。
- ・子どもができることや興味があることなどを共有させていただいていると感じる事が多々あります。どの先生方も一人一人の子供と向き合って保育してくださっているのだなと思っています。
- ・担任の先生はとても優しく接してくれていると感謝しています。

7. その他お気づきになったこと、園に対するご意見などがありましたら、お書きください。

- ・翌月の園行事をその月の園だよりなどに大まかに書いて下さると予定が立てやすいです。
- ・仕事で一緒にいられない分、保育園で色々な関りや言葉を覚えて帰って来て成長を感じるので、先生方にはいつも感謝しています。今後もよろしくお願いします。
- ・特にありません
- ・園にお休みの電話をすることがよくあるのですが、いつも宮本先生が電話にでてくれ体調を心配してくれているのが嬉しいです。先生方のあたたかさを感じます。
- ・子どもが保育園好きみたいなので、親も嬉しく思います。
- ・ホームページにもっと写真をあげてもらえると嬉しいです。一番保育園での様子が分かり、見ていて楽しいです。
- ・子供の1つ1つの仕草や特徴を見ていただき(熱がでそうなど…)何かありそうな時でも、するどく察して頂き観察してくれていたのがとても伝わってきました。
- ・お忙しい中、いつも丁寧に園での様子をノートやおむかえの際に教えて頂きありがとうございます。先生方のおかげですくすくと成長できている子どもを見て嬉しく思っています。ひかりさんに通えて本当に良かったです。ありがとうございます。
- ・他の園には、あまりないアットホームな感じがとても良いと思います。

うさぎ組アンケート集計結果

2020年1月実施

配布 14部 回収 13部 回収率 92.9%

うさぎ組はクラスをめざす子ども像として、(1)自分のことを大切に思い、友だちにも思いやりを持てる子ども(2)「自分で」という思いをもち自分なりに頑張る子どもと決め、保育をしてきました。

4月からの保育で、子どもたちの噛みつきが増えたため、担任でどうすればいいか話し合いをしました。「友だちと遊びたい」「友だちと一緒にのおもちゃが欲しい」と子どもたちの思いは様々ですが、言葉で伝えることができなくて行動に出てしまいます。私たち保育士は子どもの欲求を受けとめ、「かして」「どうぞ」という言葉を子どもの代わりに伝えることをしてきました。また、噛んでしまう行動になった時には、注意するのではなく、なぜ噛んでしまったのか子どもの気持ちを理解したうえで、相手が痛い思いをしたことを伝えるようにしました。少しずつ減ってきているもの、噛みつきがなくなっているわけではありません。

子どもたちは様々な欲求をもって生活しています。それが満たされることで充実感や満足感を味わって自分なりにしたい事を見つけてそのことに取り組もうとする意欲をもつようになります。そんな中で自己主張も出てきて「自分で」という気持ちが強くなります。できることには個人差はありますが、少しずつでも、子どもたちが達成感を持てるように自分で頑張る姿を認め、できないところは少し援助しながら保育してきました。

クラスだよりや、ドキュメンテーションなどでクラスの取り組みなどをお知らせしてきました。いろいろな面で成長しているこの時期を、保護者の方と共に見守っていかれたらと思います。今回のアンケートは、保護者の方の意見を参考にし、今後の保育にいかしたいと思います。お忙しいとは思いますがアンケートにご協力おねがいします。

○家庭で、お子さんは家族の方を噛むことはありますか。それは、こういった時に噛まれますか。お聞かせください。

- ・寝る時にテンションが上がった時に肩を噛んでくることがあります。
- ・遊びの延長でたまに噛む事があります
- ・叩くことはあってもかむことはないです
- ・ありません
- ・家では噛むことはない
- ・噛む事はありません
- ・最近は何りしましたが、前はよくかまれました。本人は遊んでいるつもりなのか、笑顔で噛んだりします。怒ってかむということはなかったです。かむ度に注意していますが、毎日のようにかまれていました。最近は何ったにないです。
- ・上の子におもちゃを取られた時などにたまに噛む時があります。最近は何り噛まなくなりました。
- ・以前は少しあったが、今はなし。おもちゃの取り合いで負けたとき
- ・コウフンした時や眠い時にかまれます。
- ・兄弟と遊んでいる時に、おもちゃを取られたり、嫌なことをされた時に噛んだりすることがあります。
- ・ない
- ・少し前まではありましたが、最近は何り噛むことがなくなりました。自分がしたいようにならなかった時。

○保育園でお友だちとの関わりも増えてきましたが、お友だちとの事で気になっていることがあればお聞かせください。

- ・お友だちを噛んだり、ひっかいたり、物をぶついたり、たたいたりしてないか
- ・お友だちと仲良くコミュニケーションをとれているか気になってます
- ・叩いたりしてないか心配です
- ・先生、お友達のことが大すきで毎日笑顔で登園させてもらってます
- ・お友達が持っているものを取りに行っているのではないか
- ・「バチーン!!」と言って叩いてくることがあるので、お友達にも叩いたりしてないか気になります。これも本人は遊んでいるような感じです。

- ・家ではおもちゃの取り合いになっても上の子たちがゆずってくれるので、保育園でも同じ感覚だとトラブルがおこってないか
- ・友だちを噛んでないか、おもちゃの横取りをしてないか
- ・お友達にも噛んだりしてないか心配です
- ・ない
- ・お友だちと一緒に遊んでいるか、ケンカしていないか気になってます。

○子どもさんが噛まれた時に、どう思われましたか。

- ・噛まれたことはありませんがどうなるという事もわかってほしい
- ・経験なし
- ・嫌だし痛い 何を目的に噛まれたのかわからないから、どうしたらいいかわからない
- ・園でもしてないか不安になった
- ・二日連続噛まれた時には、え!!また!!と思いましたが、うちの子も噛んでいるかもしれないので、それは言えないなと思います。
- ・多少かまれたくらいは「お互い様」と思って気にしません。病院に行かなければいけないくらいだったら、少し不安にはなると思います。
- ・自分の子供が一度噛んだか噛まれたか…があった気がしますが。噛む事はイケナイと思いますが、何かあった時(連れ去られる)などの抵抗手段として「噛む」という行動も多少大事だと思います。噛む事によって「自分が注意される」事も大事だと思います。個人的な意見です。
- ・相手の子に噛んだりひっかいたりしていないのかと思った。
- ・お互いさまなので、先生が気づいて介入して下さっているので気にしていません
- ・自分に子が噛んだのでないなら、この頃の子供にはあることなのでしかたないと思いました。
- ・驚きましたが特別な感情は生まれませんでした。子ども同士の事なので、多少仕方ない出来事かと思ってます。大きなケガでなかったので安心はしました。
- ・「痛い」と思った。かなり強い力で噛むので他人を噛んだら大変だと。

○連絡帳などで、子どもさんの悩みなどを相談された際に、担任のアドバイスなどは参考になったでしょうか。参考になったことや、ご意見などがありましたらお聞かせ下さい。

- ・とても参考になりました。子どもの気持ちを受けとめるのはなかなか難しいですが、できるだけ頑張ろうと思います。
- ・特に悩みはありませんが、いつも園での様子を教えていただき感謝しています。
- ・相談等はあまりしていないが質問には的確に答えて下さいます。
- ・いつも日中の様子をかわいいエピソードで教えて頂きありがとうございます。
- ・特に相談してないのでないです。
- ・園内での生活を書いて下さっているのでもううれしいです。どんな遊びをしたかなどをみて参考に家で似たようなおもちゃをそろえたりしています。トイトレの相談ものつてくれたりしてるので助かってます。

○クラスだより9月号で「子どもの姿」というコーナーがありましたが、それを読んで、子どもたちの「できた」という思いに繋がることはありましたか。

子どもの姿

最近、うさぎ組の子どもたちは、何でも「自分で」という思いが出てきました。ズボンを自分で脱いだり履いたりすることも増えてきたのですが、その気持ちとは裏腹になかなかできなくて困っている事もあります。そんな子どもたちの気持ちに寄り添いながら子どもたちの「できた!!」という自信と喜びを感じられるように関わっていきたいと思っています。お家の方でも、「できた」を感じられるような応援をお願いします。

- ・自分からお手伝いすると言って洗濯物をたたむようになりました。できたとすごく喜んでいます。
- ・手伝おうとすると嫌がるので、できるだけ自分でしたい事はさせるようにしています。
- ・風呂上りに紙パンツやズボンを渡して上手にはけたら「できたね」と声かけすると喜んでいます。
- ・自分で!!が口ぐせな我が子です。園で着替えも自分でと促して下さっているのでもう一人で着

脱できるようになってます。

- ・最近パジャマを自分で着たがるようになったので、サポートしながら自分で着るようにしています。できたらハイタッチして喜んでいます。
- ・はい。家でもズボンやら服を自分で着るので「すごいでー。できたなーかしこい。」とほめちぎっています。
- ・自分で服を脱いだり着たりできるとほめると喜んでいます。
- ・はい。服の素材に気をつけ（おたよりをみて）ゆっくり見守り、ズボンのぬぎはきができることがふえました。
- ・できるだけ邪魔をしないように手伝っています。又、できた時にはほめるようにして声かけを大事にしています。
- ・洋服等を自力で着よう頑張ってる姿を見守っています。上手に着れると「できたー!!」と言って一緒に喜んであげています。
- ・今までしなかったパズルやくつを自分ではいているところを見て、少しやらせてみると、昨日より今日、今日より明日という感じでできるようになっていくのを見て、成長を感じた。一緒に「できたー！やったー！」と喜ぶことができた。

○私たちの取り組みについて、意見や改善点があればお聞かせください。

- ・いつもありがとうございます。保育園での生活で学ぶ事が多く、子どもにとってすごい良い刺激になっていると思います。成長を日々、うれしく思います。
- ・「自分で」という思いを大切にいただきありがとうございます。
- ・先生はとても良くしてくれています。ありがとうございます。
- ・送迎時の温かい雰囲気にもいつもほっとしています。ひざの上で絵本を読んでもらっていることも多く、幸せそうな表情にほっとしています。
- ・よくしてくれているのでとくにないです。
- ・特にないです。

きりん組アンケート集計結果

2020年1月実施

配布 16部 回収 10部 回収率 62.5%

クラスでの取り組みについて

きりん組では、「心を育む豊かな言葉かけ」について、日々の保育の中で豊かな言葉とは何かを見直し、子どもたちにとって「心地よい言葉」に満たされた環境作りに取り組んできました。

具体的には、明るく親しみのこめた挨拶を大切にしながら、子どもたちにとって園での生活が温かく和やかで楽しく安心できる場となるように心がけてきました。また様々な言葉やお話の世界を楽しめる絵本との出会いを大切に、1年間を通して朝夕にできるだけ絵本の読み聞かせの時間を持つようにしました。また室内の絵本コーナーも再度見直し、子ども達が自然と絵本と出会いいつでも手に取って楽しめるような環境作りを行ってしました。そして、きりん組の年齢では言葉が増えごっこ遊びが盛んになる時期なので、ごっこ遊びを通して友だちや保育士と言葉のやりとりを十分楽しめる経験ができるように工夫してしました。

「保育の見える化」については、掲示板、クラスだより、連絡ノート、送迎の際を通して普段の保育内容や取り組み、子どもたちの成長の様子などを分かりやすく伝えられるよう工夫してしました。

しかし、まだまだ不十分な点や改善点、これから新たにに取り組んでいけることがあると思います。保護者の皆様から率直なご意見、ご感想を教えていただき、今後の保育にいかしたいと思っています。お忙しいと思いますがアンケートにご協力をお願い致します。

1. この1年間でお子様の絵本に対する、興味・関心に変化は見られましたか？

- | | |
|------------|----|
| ㊦ 見られた | 6人 |
| ㊩ 少し見られた | 1人 |
| ㊧ あまり見られない | 2人 |
| ㊥ 見られない | 0人 |
| 無回答 | 1人 |

※具体的なエピソードがあれば教えて下さい。

(回答内容)

- ・興味をもってきいてくれるようになりました。「これ読んで」と持って来てくれることが増えました。
- ・繰り返し「よんで」と絵本を持って来てくれることが増え、少し長いお話も「これは何？」と出てくる物や動物に興味をもって聞けるようになりました。保育室入り口にある絵本もシリーズ分けされてとっても見やすく「これにする！」と持って帰る回数も増えました。
- ・以前のおたよりで書いて下さっていたように普段の生活の中で絵本の会話が出てきています。(例) 寝ているお姉ちゃんを起こすとき…「うんとこしょ」「どっこいしょ」と大きなカブの絵本のように引っ張って起こそうとしていました。
- ・家でよく先生が絵本を読んでくださっているのが真似しています。
- ・前までは全然興味をもってくれなかったのですが、自分から読みたい本を持ってきてくれて「これなに？」といろいろな質問してくれます。
- ・絵本コーナーの本を持ってくるようになった。
- ・読んでほしい本を自分で選び持ってきたり、自分で読もうとしたり、お気に入りの本ができてきたりした。
- ・もともと絵本が好きだったので、大きな変化はありませんでしたが、家にはない絵本を借りてくると嬉しそうにパパママに見せてきたり、屋外の絵本コーナーも好きで気に入った本があれば借りさせていただいています。

2. 掲示板に週1～2回掲示をしています、見ていただけていますか？

- ㊦ 必ず見ている 3人
- ㊧ ほぼ見ている 5人
- ㊨ 時々見ている 2人
- ㊩ 見ていない 0人

3. 掲示の写真について、どのような内容を書せてほしいですか？(複数回答可)

- ㊦ 遊びの様子 10人
- ㊧ 生活の様子 8人
- ㊨ 行事の様子 5人
- ㊩ 食事の様子 6人
- ㊪ その他 ()

4. 掲示の写真について、思った事や、要望、エピソード等あればお聞かせください。

(回答内容)

- ・コメントも楽しく書いてくれてその時の状況がとても伝わります。たびたび更新してくれているので感心させられます。
- ・忙しい中でもいつもたくさん掲示して下さい生活の様子がよく分かって嬉しいです。「今日〇〇したん？」と子どもに聞くと「〇〇ちゃんと～、〇〇ちゃんと～」と詳しく話してくれます。子どももその時のことを見て思い出せるのでちゃんと会話できて楽しいです。ありがとうございます。
- ・保育園での様子が分かり、ありがたいです！
- ・子どもの自然な笑顔の写真とかを見ていつも安心させてもらってます！！園での生活を楽しんでいるので今年で卒業なのがさみしいくらいです。
- ・保育園での生活はいつも見えないので、どんなことをしているのか知れていつも楽しみにしています。
- ・過去掲示分のファイルも見たがっていました。
- ・お忙しい中、園での子どもの生活がよくわかるようにまとめて下さっていてとても嬉しいです。
- ・普段の園の様子がなかなか分からないぶん、写真の掲示はとってもありがたく、いつもほえましく見せていただいております。引き続き楽しみにしています。子どもとの話題も広がります。

5. クラスだよりの内容について、どのコーナーに一番興味がありますか？

- ㊦ 先月・今月の保育について
- ㊧ お知らせ・お願い 3人
- ㊨ いいところみつけた 6人
- ㊩ 写真コーナー 4人

※新コーナー「いいところみつけた」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

(回答内容)

- ・かわいくてすごくいいコーナーと思います！我が子のところは楽しみでしたし、他の子の時もたのしくよませてもらっています。よく見て下さっているんだなと感じます。

- ・我が子の番が来るのが楽しみにでいつも注目しています。どんな所を「いいところ」だと感じて下さっているのかなと楽しみです。またほかのお友だちのこともこんなことができるんだな～と読んで感心しています。写真入りで子どもと一緒に見て「今月は〇〇ちゃんやな」と会話も増えます。とってもいいコーナーだと思います。
- ・お名前が覚えていないお友だちの事が分かったり、子どもと一緒に友だちの話ができたりと会話のきっかけになっています。お友だちの可愛い様子が載っているのが大切にファイルに入れて保存版にしています！
- ・1人1人の良い所を見つけてくれるので親として嬉しいです。そんな所、家では見せてくれないのになあと思ったり園と家での差が見つかりおもしろいです！
- ・お友だちがのっているのをみて子どもからも紹介してくれます。
- ・お友だち名前と顔が一致するので子どもと話がしやすくなった。
- ・自分の子どもが載った時はやはりとても嬉しかったです。周りの子と比べることなく一人ひとりのよいところを見つけようとしてくれているのがいいなと思います。お友だちの事も知れていいなと思います。
- ・いいとこみつけたは一人一人の様子や性格がよく伝わって来ました。自分の子どもの意外な一面も知る事ができ、読むのが良かったです。又、写真付きなので、子どもからお友だちの名前は出た時にはすごく役に立つ話の和が広がりました。
- ・先生方が、子どもたちのことをよく見ていただいていることがよく分かります。自分の子どものことはもちろんですが、クラスのお友だちにはこんな子がいるんだなあこちらもほほえましく読ませていただいています。子どももこのコーナーは好きで、「読んで」と言ってきたりします。

6.連絡ノートについて、希望や改善点などあれば教えてください。

(回答内容)

- ・詳しくかいてくださっていていつも楽しみに読ませてもらっています。
- ・担任の先生が交代で書いて下さっているので、違った目線から見た様子がよく分かり、いつも楽しみに見えています。
- ・毎日丁寧に書いて下さって感謝しかないです。
- ・園の様子を毎日知らせてくれてありがたく思います。体調面や食事の事をもう少し知りたいです。又、トイレの様子も口頭で伝えられない時もありますので……
- ・どの先生もいつもていねいに書いていただき、園の様子がよく分かります。また家庭でのエピソードや相談事も気兼ねなく書きやすいです。強いて言うなら、午睡の終了時間(子どもが起きた時間)を書き加えていただけると、園でのリズムを把握しやすく、夜の寝かしつけも調整しやすいです。

7. お子様の事について、担任と送迎時や連絡ノート、個人懇談などで話や相談をすることができましたか？

- ㊦ できた 9人
- ㊩ 少しできた 0人
- ㊧ あまりできなかった 1人
- ㊥ できなかった 0人

※具体的なエピソードがあれば、お聞かせください。

(回答内容)

- ・話をする機会がある時はいつも親身になって話を聞いて下さいます。聞いてくれるだけでも心が軽くなります。
- ・連絡帳に家であった出来事を書くのと送迎時に先生の方からそのことについて質問があり、詳しく話す機会を持つことが出来ました。ささいなことでも気にかけて下さり、ありがとうございます。また、お迎えの時に母以外だと泣いてしまう子どもに対しても子どもの気持ちを持ち上げて下さり、配慮して頂きありがたかったです。
- ・担任の先生にはアレルギーやアトピーについて相談でき、病院を進めて下さり言って本当に良かったと今では感謝です。あの時、先生が背中を押してくれなければ私は行ってなかったと思います。そしたらアトピーも今みたいにきれいにしやすくなりました。

本当にありがとうございました。

- ・おむつのことなど相談に乗ってくれています。
- ・次の保育園の事や、トイレの事、子どものかんしゃくの事など何でも話しやすく相談しやすかったです。先生の考えや視点を知ること、家での対応の仕方など大変勉強になりました。さすがだなあと思うことが何度もありました。
- ・日頃なかなかコメントを書く事が出来ない分、必要な時には書く様にしています。たまにしか書かないコメントに対して、きちんと返答のコメントがあるのはうれしかったです。
- ・先生方、いつもていねいに対応してくださるので、とてもありがたく思っております。特に、北川先生は、送迎時、とてもささいな事も話題にしてくださり、安心感があります。

8.その他、今後の保育の資質向上のためにご意見・ご要望等ありましたらお聞かせください。

(回答内容)

- ・安心して働くことが出来ています。ありがとうございます。
- ・どの先生もいつも素敵な笑顔でいて子どもも楽しく保育園に通っていてひかりさんに通っていてよかったなといつも家族で話しています。あと少しですがよろしくお願いします。
- ・送り迎えの時、いつも同じ保護者の人ですが、逆送している人を見かけます。何度かすれ違い対向しましたが、ジェスチャーでこの道はダメと2,3回伝えたのですが、効果がありませんでした。保護者もルールを守り気持ち良く保育園へかよえたらと思います。
- ・子どもだけではなく、先生方もできるだけストレスの少なく、生き生きとできる環境を引き続き作っていただけたらと思います。

調理アンケート集計結果

2020 年 1 月実施

回答数：ひよこ 9 人 リす 12 人 うさぎ 13 人 きりん 10 人

調理では、安全で美味しい給食作りを心掛け、一人一人の体調や状態に応じた食事を提供することで健康な身体と心を育てるため日々取り組んでいます。食育活動を通して保護者の方と共に食べる事の楽しさや作る喜び、感謝の気持ちを育んでいきたいと思っています。

今後の保育にいかしたいので、お忙しいとは思いますがアンケートにご協力お願い致します。

1. 毎日の献立の展示、写真のファイル(正面玄関に設置)をご覧になって、ご家庭で作ってみたり、作ってみたいと思われたことはありますか？それはどの献立ですか？

【ひよこ】

- ・献立は見ていますが、活用できていません。
- ・いつも美味しそうなので参考にしています。
- ・自分のレパートリーだと偏ることがあるので、野菜の取り方の工夫を参考にしています。
- ・まだ見たことないです。
- ・ごはんのバランスなど参考にしています。
- ・保育園でのメニューをまねして作ってみたり、それっぽく作ってみたりしています。離乳食のメニューはなかなか思いつかないこともあったので、特に参考になりました。いつも丁寧に作っていただき感謝しています。
- ・鮭のトマトあんかけ あんかけでトマトをあまり使ったことがないので勉強になりました。

【リす】

- ・行事の時の献立は参考にしたいです。
- ・作ってみたことはありませんが、量や具材の大きさは参考になりました。
- ・毎日献立を見て帰っています。どの献立も組み合わせ等参考になり、作ってみたいと思いました。
- ・迎えの際、毎日の献立を見させて頂いています。子供も見えて好きなものは教えてくれるので、調理の仕方を参考にしています。
- ・行事の時にあるかざりをしているメニューはいつもヒントをもらっています。参考にして晩御飯に取り入れています。次は節分やひな祭りのご飯を楽しみにしています。いつもありがとうございます。
- ・魚料理はいつも決まった魚しか使わない事が多いので、給食を参考にしています。
- ・おやつに肉まんが出ており、興味があったので、家で手作りして食べさせました。魚料理のレパートリーが少ないので、家でも作ってみたいので、レシピ知りたいです。
- ・展示を一緒にみて、話すのが日課で、子どもも嬉しそうに見ている。
- ・ほとんどの献立が作ってみたいなと思いました。
- ・お誕生会の時に作ってくださるアンパンマンプレート とてもかわいくて、ぜひ次の誕生日の時作ってみようと思います。トマトの皮を湯むきしているのがさすが！！と感心しています。
- ・保育園のように、なかなかできませんが少しでも近づけるように品数を多くしようと思います。
- ・チーズ蒸しパンを作ってみたいです。

【うさぎ】

- ・いつも「おいしそうだな」と思い、作ってみたいとは思いますが、なかなかで…。レシピがもっと知れたらと思います。
- ・子どもたちが残さないもの、給食では残されることが少ないような鉄板メニュー
- ・行事食
- ・似たような感じの献立を作ったり、野菜等の大きさを参考にさせてもらっています。ハヤ

シライスやひじき入玉子焼き等、煮物。

- ・お誕生日メニュー かわいくてまねしたくなります。
- ・あります。野菜をたくさん使った料理やスープ、味噌汁。
- ・魚の味噌煮。鮭のピカタ。ひじき入り玉子焼き
- ・作ってみたいと思うのですが実際にできていません。野菜を使った物などは気にして見ている。
- ・あります。以前、給食参観でいただいた鮭のチーズフライなど、あまり味も濃くなくさすがだなと思いました。
- ・誕生会などの行事食。

【きりん】

- ・あります。特に行事や誕生会のときのかわいいメニューは参考になります。実際、ハロウィンの時の献立は日を変えて作りました。
- ・毎日の献立の展示は毎日何を食べているか伝わり、楽しみに見ていました。家では食べそうにないものも、食べているんだなと思いました、魚や野菜
- ・だいぶん前に見たのですが、きなこパンを(食パン)を朝食にしました。最近は正面玄関に行けていないので、
- ・調理の先生に子どもが良く食べたマーボー豆腐のレシピを教えてもらい作りました。好き嫌いが多いので困っていたのでもう助かりました。
- ・茶碗蒸しとミートローフをチャレンジしてみたいです。白菜の和え物のレシピ知りたいです。
- ・お魚三色ごはんは作ってみたいと思い挑戦しました。おやつも保育園で食べているチーズなど同じものを買って休日などに食べています。
- ・きゅうりを使った副菜
- ・以前、給食参観の時に魚(何か忘れました)の幽庵焼きにすだちを入れていて、おいしそう！と思ったので作ってみたことがあります。

2. 献立表や給食だよりで、子どもたちの食事の様子(写真)や園で提供している給食やおやつのレシピ、栄養や食についての情報などを掲載していますが、どのようなことに興味がありますか？

【ひよこ】

- ・子どもの食いつきのいい献立が気になります。
- ・どのようなメニューが好きで、家ではあまり食べないものを園ではどのように食べているか知りたい。
- ・年齢や月齢よっての食の形態や必要なカロリー、栄養素等
- ・献立表はとてもわかりやすいです。お休みの日の参考にしたいので、おやつもどのようなものをあげているか詳しく知りたいです。
- ・おやつのレシピは参考になり、休日に作ってみたりしています。食べている様子が分かるので写真も嬉しいです。
- ・レシピ
- ・食事の様子や普段どのように食べているか見られるので興味があります。

【りす】

- ・子供に人気のレシピなどを知りたいです。
- ・子どもたちの食事の様子(写真)
- ・子どもたちの食事の様子が見られるのは嬉しいです。またレシピ等も参考になります。
- ・おやつのレシピをたくさん教えてほしいです。
- ・アレルギー対応のおやつが知りたいです。
- ・簡単で栄養満点のおすすめレシピが知りたいです。
- ・給食やおやつのレシピもっと知りたいです。たくさんレシピを掲載していただくと嬉しいです。
- ・昼食やおやつに使用している材料。
- ・子どもが食べている様子などが載っていると、園でもしっかり食べられているのだなと安心できます。
- ・メニューに興味があります。

【うさぎ】

- ・食事風景の写真は子供と一緒に見えています。
- ・簡単なレシピを教えてもらえるのはありがたいです。

- ・アレルギー対応されているメニューで、子どもがよく食べるメニュー
- ・栄養の部分
- ・おやつレシピに興味があります。おやつは買ったものですが多く、手作りであげたいのでレシピがあると参考になります。
- ・レシピ、季節の旬の食べ物の情報、子どもの写真
- ・子供が園でどんなに食べているのか。家では少食なので園ではきちんと何でも食べているのか。
- ・おやつで野菜を食べさせられないか。
- ・食事の様子がやはり一番気になっています。家での食事とかぶらないように献立表は毎日見えています。
- ・子どもたちの食事の様子に興味があります。

【きりん】

- ・食後や調味料等の食品添加物や、化学調味料の有無や種類。
- ・家では同じようにできませんが夜の食事に重ならないようにするポイントになっています。
- ・行事食。季節の野菜。
- ・アレルギーのおやつが知りたいです。
- ・子どもたちの写真には特に目がいきます。豆知識的なものも『へえ～＾＾』と思って読んでます。
- ・給食やおやつレシピは興味があり、よく見えています。食事の様子写真もクラス別で、他のクラスのことでも知ることができ、興味深いです。
- ・レシピ（２）
- ・毎日、食べている内容
- ・食材などについて説明してくださっている写真やお手伝い（トウモロコシの皮をむくなど）をしている写真を見て、色々経験させてもらって感謝しています。

3. 園では調理職員が各クラスへ行き、摂取状況を確認し子どもたちと関わり声かけするようにしています。子どもたちに食材や調理過程を見てもらうことで食に関心を持ち、食材や作ってくれている人への感謝の気持ちも育てていきたいと思っています。ご家庭で園での給食やおやつについて子どもさんと話すことはありますか？エピソードがあればご記入ください。

【ひよこ】

- ・まだ、あまりないです。
- ・子どもが小さいので話すことは少ないですが、全部食べた日には「すごいねー」「おいしかったねー」と声かけしています。
- ・「今日のごはんおいしかったなあ」などと話しかけています。いつもほぼ完食しているので、美味しく頂いていると思います。
- ・おやつがおいしかったと喜んで報告してくれます。
- ・調理職員さん方が各クラスへ行って摂取状況を確認している事を初めて知りました。

【りす】

- ・その日のメニューをみて「今日の給食・おやつおいしかった？」と聞いています。
- ・まだ話すことは難しいのですが、親から、献立の展示を見て「全部食べた？」や「おいしかった？」など話しかけるようにしています。
- ・時々食事の前のお祈りを家でもしています。保育園でしていることを覚えて帰って来ていてびっくりすることがあります。
- ・毎日お昼ご飯の事は子供に聞くようにしています。園での食事は残さず食べる子なので、家でも調理前の食材を見せようと思います。
- ・毎日ケースの中にある給食を見てどれ食べた？と聞いています。子供もこれ！食べたとおしえてくれています。
- ・家では嫌いなものは食べるのを嫌がって、好きな物しか食べませんが、園ではいつも連絡帳に完食と書かれてあるのでおいしく作ってくれているんだなと思っています。
- ・子どもと話すことはありませんが、おいしい？と聞くといつも「うん！」と言うので、その反応が全てだと思っています。
- ・まだ上手にお話はできませんが、「いただきま～す」「（ごちそーさまでし）た！！！」を言う習慣がついています。マナーを守らせて（教えて）くれているのだなと嬉しく思います。
- ・帰りにレシピの見本を見て「おいしかった？」「全部食べられた？」とコミュニケーションが取れています。

【うさぎ】

- ・園から帰る時、必ず給食のサンプルを見て、「おいしそうだね」「食べた！」と嬉しそうに言っています。
- ・「今日は何食べた？」とか話をしたりしています。
- ・まだ言葉がきちんと話せないなので具体的な話はしたことがないですが、ケーキが好きみたいでTVやチラシ等で見かけると「ケーキ！ケーキ！」と言ってくれます。
- ・毎日帰りに給食を「見て」と言って、食べたことを教えてくれます。その時の顔がすごく楽しそうなので食事が楽しいのだろうなと思っています。
- ・展示している所で説明してくれたり、食べたよと教えてくれます。食材の名前を覚えていたり、食事の時にパパ、ママありがとうと感謝の気持ちを伝えてくれています。
- ・帰りの際、いつも給食おやつを指さして「おいしかった！」と言っています。

【きりん】

- ・帰り際、いつも子どもと献立の展示を見て帰っています。園では毎日のように完食して帰ってくる子どもは、いつもとても嬉しそうに、給食やおやつを見せてくれます。
- ・ちょうり先生の言葉が時々ききます。今日ちょうり先生にありがとう言うとか、美味しかったって言うなど話してくれます。避難訓練の時一緒に避難するのか？そんな話もしていました。
- ・お迎えに行っていた時は献立の展示を見ながらお話していたのですが最近は、夕食の時に給食食べられたかなー？と聞くぐらいになっています。食事の前にお祈りを大きな声でしてくれる時もあります。『いただきます』や『ごちそうさまでした』がきちんと言えるようになり嬉しいです。
- ・『どれ食べた～？』ってケースにある給食を見て毎日きいています。
- ・毎朝『今日のご飯何ですか？』と元気な声で聞こえているのをほほえましく思います。『今日のごはん食べれたん？』と聞くと『〇〇は無理だった』とか『全部食べたー！』と答えてくれます。そして『ママも赤ちゃん組で食べたん？』と聞いてきます。
- ・給食やおやつサンプルケースは、ほぼ毎日ぐらい、子どもが『〇〇と〇〇と〇〇食べたんよ』と知らせてくれています。家に帰ってからは話す事は少なく、明日の献立を見て『明日は〇〇よ』と知らせることはあります。
- ・みかんを食べなかった話は聞きます。
- ・美味しかったと喜んでいます。
- ・『今日、～食べたよー』と毎日嬉しそうに教えてくれます。
- ・『ピザ食べたんよ～。』と言っていた日のおやつがピザトーストでした。

4. 家庭で苦手な食材をどのようにして食べてもらっていますか？また、家庭での食事で大切にしていること、気をつけていることはありますか？

【ひよこ】

- ・まだ、あまり苦手なものがないみたいです。
- ・栄養バランスに気をつけて楽しい気分で食べられるようにしている。
- ・苦手なものは細かく刻んでハンバーグやお好み焼きに混ぜています。食事するのが嫌にならないように無理には食べさせず、家族みんなで食べるようにしています。
- ・バランスがとれるよう心がけてはいます。
- ・細かくしてバレないようにする。
- ・たんぱく質などのバランスに気をつけています。食べないものはとろみをつけたり細かく切ったりして食べさせてみています。
- ・今のところ苦手なものはあまりないので、まんべんなく食べています。家庭では、野菜や魚などが不足しないようバランスの良いメニューを心がけています。濃い味のものできるだけ与えないように気をつけています。
- ・野菜は小さく切ってみると食べてくれるので何でも食べさせています。たんぱく質と栄養のバランスを大切にしています。
- ・他の食べられる食材と一緒にスプーンに乗せて口元に持っていったら食べてくれるので今はそうしています。

【りす】

- ・好きなメニューや好きな食べ物と一緒に食べるようにしています。
- ・野菜を嫌がるのでミキサーで粉々にしてカレーやオムレツの中に入れるようにしています。大切にしているのは、好きなものばかり食べずバランスよく食べようと声かけする事や、

苦手なものでも少しでも食べたらほめてやることです。

- ・ 苦手な野菜はお肉に混ぜたり小さく刻んでできるだけ目立たないようにしています。極力は家族そろって、楽しく食事ができるように心がけています。
- ・ 今の所好き嫌いは無いですが、大人と同じ食材を使い前で一緒に食べて色んな物を食べられる様に味付け等も片寄らない様に工夫しています。
- ・ 私が好き嫌い多くて…子供にムリヤリ食べてとは言えないので、嫌いなのはいいよ！！大人になったら食べようね！！と言っています。
- ・ 好きなものの中に混ぜたりします。
- ・ あまり苦手な食材はないみたいですが、メニューによって食いつきが良いものと、あまり良くないのものがあつたりするので、少し味付けを変えたり、忘れたころにもう一度出してみたりして、食べてもらえるように工夫するようにしています。
- ・ 苦手な食材は細かくし食べやすくしている。
- ・ 苦手なものでも舌で味わってみること。
- ・ 今のところ何でもおいしく食べてくれています。忙しくてなかなか品数が作れないので、みそ汁のだしをしっかりとって具をいっぱい入れるように気をつけています。
- ・ 野菜が苦手なのでカレーやシチュー・味噌汁に入れて食べてもらっています。最初と最後「いただきます」「ごちそう様でした」は言えるように気をつけています。
- ・ 苦手な食材は、あまり食べさせられてないので、工夫して食べさせたいですね。

【うさぎ】

- ・ 野菜が苦手で汁物にしたなら食べてくれるので具だくさんのスープやみそ汁にしています。子供が食事する時は必ず大人も食卓につくようにしています。子供が一人で食べている時も一緒に席に座って飲み物を飲んだりしています。
- ・ 苦手な野菜などを細かく切ったり、あまり分からないようにして食べてもらっています。
- ・ できるだけ家族そろって食事をする。
- ・ できるだけ家族みんなで食べるようにしている。
- ・ なかなか食べてくれないので、細かくつぶして好きな食べ物に混ぜたりしています。
- ・ 苦手な食材は小さく刻みます。
- ・ ケチャップ、マヨネーズ等で味付けする。夕食時に必ず野菜は混ぜ込んで食べます。行儀が悪い時は注意する
- ・ 小さく刻んで混ぜたりしています。また保育園で食べているような大きさを参考にしています。
- ・ 野菜が苦手ハンバーグにいろんな野菜を混ぜたり、チャーハンにしたりして食べさせています。塩分と何か野菜を付けられるように気をつけている。
- ・ 何でもよく食べてくれます。できるだけみんな一緒に食べる事。野菜も家族がおいしそうに食べていると食べてくれます。
- ・ 卵や豆腐などを使って卵焼きに入れたり、お焼きのようにしたりする。片栗粉でとろみをつける。

【きりん】

- ・ 苦手な食材は小さく刻んだり。煮るのがダメなら揚げたりと調理方法を変えると食べてくれます。また、食後の果物を楽しみに頑張ってもらっています。栄養バランスや、添加物等ができるだけない食事をと気をつけています。
- ・ 料理については工夫ができていません。家族そろってみんなで食べる事を大切にしています。
- ・ 苦手な食材は小さく切ってハンバーグにいれたりスープにする。一口だけ食べようと応援。食事の時は TV を消して家族で楽しく会話しながら食べる。おはしを並べたり、お茶をだしたり、みんなで協力し準備する。
- ・ 苦手なやつは時がたてばたべられるかな？と思い・・・(笑)。あまり無理矢理は食べさせずに代わりの野菜を使ったりしています。
- ・ 苦手なものは『1回だけ！』と励まして食べさせています。お汁の中に出来るだけ沢山の野菜を入れるようにしています。
- ・ 今のところ、苦手な食材はあまりないのですが、楽しく食べる事と、(食べる時は)あまり時間をかけすぎないようにしています。バランスのいい食事になりたいけどなかなかできていないのが現状です。
- ・ 小さく刻んで混ぜているが、あきらめています。
- ・ 栄養のある野菜を沢山使用して、タンパク質は園の給食とかぶらないようにバランスを大切にしています。

- ・細かく切ったり、好きなものと一緒にする。
- ・おやつが好きなので、『ご飯を全部食べたらおやつを食べる』などのルールを守るように気をつけています。苦手（嫌い）なものはないと思いますが、ムラがあるので困っています。主人と協力して食べさせています。

5. その他、園での給食やおやつについてお気づきの点やご意見ご感想があればご自由にご記入ください。

【ひよこ】

- ・いつもたくさん食べているみたいです。ありがとうございます。
- ・園で手作りなので安心しています。食材も地元の物や国産の物を使ってもらえるとよりありがたいです。いつもおいしい食事、おやつをありがとうございます。
- ・フルタイムで働いていると、なかなか多くの種類のおかずを作ることが出来ない日もあり、冷凍していたものを食べさせたりしてしまうので、毎日温かく違うメニューを提供していただいて本当に助かっています。感謝しています。

【りす】

- ・子供が給食やおやつがもっとほしいとおかわりを要求する事が多いのかどうか、そういう時にはどうしているのでしょうか。家では好きなだけ食べることが多いです。
- ・いつもバランスよく提供して頂いて、ありがとうございます。よく食べるのと早食いなので、時々相談させてもらっていますが、また気になることがあればその都度よろしく願います。
- ・特になし。毎日おいしい給食を作って頂き感謝しています。
- ・毎日おいしい給食をありがとうございます。工夫やアイデアを参考にさせてもらい勉強しています。
- ・誕生日メニューがいつもおいしそうでたくさん工夫されており、すごいなと思っています。
- ・とても工夫して頂き、子供達の興味が沸くような色どりや盛り付け、メニューにしてくださってありがとうございます。
- ・いつもおいしそうなきゅうしい給食やおやつをありがとうございます。おかげ様で食べることが大好きな子に育っています。パクパク食べてくれる姿は作ったものとして本当に嬉しいことです。私も栄養士や調理師の先生方のようなおいしい食事が作れるようにがんばります。
- ・いつもおいしそうだと思います。

【うさぎ】

- ・家庭だとなかなかレパートリーが少なく、同じようなものばかりになってしまうが給食でいろいろなものを食べさせていただいて感謝しております。だいたい毎日完食しているようなので、おいしんだろうなと思っております。
- ・子供の食欲をそそるようなメニューでいつも「おいしかった」という一言を家庭でも話してくれます。時々おかわりをしているそうです。
- ・子供たちが食べやすいように工夫してくださっており、家で食べないものも食べているようでありがたいです。
- ・特にないです。
- ・給食担当の方、ありがとうございます。
- ・いつも家で出来ないようなおやつを作ってもらい、ありがとうございます。ほぼ全の日も多いのでとても助かります。
- ・いつもおいしい給食を作ってくれてありがとうございます。帰りに献立の展示を見るのが楽しみです。
- ・特にないです。
- ・給食、おやつ量は一般的な量なのでしょうか？いつもおいしそうな給食をありがとうございます。栄養など安心しています。
- ・毎日の給食、おやつ、バランスや色どりもよく、とても助かっています。家庭ではできない分、園でフォローしてくださりありがたいです。
- ・毎日おいしく頂いています。ありがとうございます。

【きりん】

- ・子どもは園でお友だちと食べるおいしい給食やおやつが好きなようです。引き続き、よろしくおねがいします。
- ・いつも、おいしい食事、おやつを工夫して調理提供してくださってありがとうございます。

家ではできない行事食もありがたいです。

- ・ 毎日どんな給食を食べたのかケースを見ています。すごく栄養バランスがよさそうで自分の作るごはんと比べて反省しています。おいしい給食をありがとうございました。4月からは違う園に行きますがまだ下の子がひかりに残るのでまたよろしくお願いします。
- ・ 栄養バランスはもちろん、季節や行事にあったものを作って下さって本当にありがたいです。
- ・ いつもバランスのいい食事を作って頂き、ありがとうございます。行事食なども家では可愛い盛り付け等できないので、喜んでいるだろうと思います。
- ・ 親子参観でも美味しそうに完食していたのでいつもありがとうございます。
- ・ いつもおいしそうな給食やおやつ、ありがとうございます。私も毎日食べたいです（笑）。あとお少しの園生活ですが、よろしくお願いします。

鴨島ひかり乳幼児保育園が3年間積み重ねてきたこと

徳島県人権教育指導員 徳山富子

(1) はじめに

鴨島ひかり乳幼児保育園が、2020年度徳島県人権教育研究大会 第10分科会「人権地域ネットワーク」で発表をすることになったので、それに向けて研究を進めていきたいという話を園長先生から伺ったのが3年前だった。この間、園長先生をはじめとして全職員の皆様と一緒に就学前における人権教育（保育）の在り方を模索していく中で、私も多くを学ばせていただいた。今回の研究が一過性のものとして終わるのではなく、人権を尊重することが日頃の保育の根幹に座り、鴨島ひかり乳幼児保育園の保育の質をさらに高めるものになってほしいと思った。

私は、就学前人権教育を2つの柱で捉えている。1つは「子どもの育つ権利を保障する」、2つ目は「自他の人権を大切にできる子どもを育てる」である。1つ目の「子どもの育つ権利を保障する」ために求められるのが、今回の分科会テーマの「人権地域ネットワーク」の必要性だと考える。子どもを育てるためのネットワークとして、改めて本園で重要視したいのが「家庭との連携」であると職員間の共通理解が図られた。そのために、園でどのような保育を行い、子どもたちはどのように過ごし成長しているか、そのことを保護者に伝え、信頼関係を醸成しながら協働の子育てができるようにするために、研究テーマの(1)に「保育の見える化」が掲げられた。そして2つ目の「自他の人権を大切にできる子どもを育てる」ために研究テーマの(2)「心を育む豊かな言葉かけ」の在り方について研究がスタートした。

2018年度の取組を検討している中で、先生方は「これでいいのだろうか」という不安を常に抱えているように感じた。私も自分のことを振り返ってみると、差別をなくしていける子どもを育てたいと考え教育に取り組むものの、こんな差別がある社会の中で、これで本当に差別はなくなっていくのだろうかという不安や疑問を抱いたことがあった。そのときに考えたのが「めざす子ども像」だった。大きな山の頂上を長期の目標として、その目標を達成するために、中長期の目標を立てる。登り道は1本ではない。現在の子どもの姿から、長期目標を達成するためにいくつかの中長期の目標となる「めざす子ども像」を設定し、そこに向かって実践する。それは必ず長期目標の達成につながるものである。各クラスでは、発達段階に応じた「めざす子ども像」が設定された。

(2) 心を育む豊かな言葉かけ

各クラスの様々な取組が紹介されている。子どもたちの名前を呼ぶとき、愛称ではなく正式な名前で呼んでみるようにした。こうしたことを試みてみることによって、乳幼児の一人の対等な人間としての尊厳を、私たち大人がきちんと認識する必要性が確認できる。

また、言葉が人に与える印象は、その言葉が使われてきた背景や、相手との人間関係など様々な要因が絡み合うものである。社会でも、女性蔑視の発言やそれを許してきた日本社会への批判が聞かれる。これまでは許されてきたことが、「人権の尊重」が世界の共通認識となってきた今は、許されないことがある。常に人権感覚を磨き続けることが大切だと感じる。相手の立場に立って初めて気が付くこと、さらに相手や周りの人から指摘をされてわかることがある。逆に言えば、これまで使っていた言葉（表現）だから、指摘されなければ気が付かないのである。「こんなことに気が付いた」「こんな言葉って相手はどう感じるのだろう」「その言葉は使わない方がいいんじゃないか」と気付くこと、立ち止まって考えてみることはとても意味のあることである。必ずしも「○」「×」という結論が導かれるというものではないが、そうしたことの話し合いは是非とも行って欲しいものである。それは互いの人権感覚を高め合うためにである。

子どものつぶやきをもとに、絵本の読み聞かせにも工夫がされた。一人一人の興味関心に寄り添った絵本を、保育者の膝の上で読み聞かせをする。子どもたちは、まずは自分が大切にされているという実感を味わうことができ、そのことが友達を大切にできることにつながっていく。

家庭における子どもの遊びには偏りがあるが、園では保育士の専門的見知からその必要性を感じ、感触遊びの取組が進められた。シャボン玉、水遊び、トウモロコシ、小麦粉・小麦粉粘土に触れながら友達とかかわりつつ、生き生きと遊ぶ子どもたちの姿がある。そして、感触遊びの体験が子どもたちの育ちにどのような意味があるのか、また子どもたちの変容をクラスだよりで保護者に伝えることで、保護者との信頼関係がより強固なものとなっていった。

噛みつきの問題も切実である。保育園では十分に配慮していても噛みつきが起きる。そして、その保育者対応がその後の子ども同士、保護者同士、園と保護者の関係に大きく影響す

る。今回、そのことに真っ正面から取り組んだことが報告された。子どもの行動は子どもの思いの表現であると捉え、現象だけ見るのではなく、その背景にある「いやだった」という思いを保育者が受けとめることで、子どもたちは先生に自分の思いが分かってもらえたことで安心したのだろう。こうした取組を重ねていくことで、噛みつかなくても、自分の「イヤだ」という思いを受け止めてもらえるということが理解できていくと感じた。

今回の研究に、調理を担当されている栄養士さん、調理師さんが共に取り組まれていることに感心した。子どもの保育に、すべての職員でかかわるという姿勢が見て取れる。子どもたちにとっても、自分たちにかかわってくださっているのは、保育園のすべての人たちだという意識ができ、そうした見方は今後の成長の中でとても大切なことであると考えます。また、園庭で育てた野菜が、その日の給食に調理されて出てくることについても、なんと豊かな食育だろうと思う。

(3) 保育の見える化

乳幼児にとって、家庭と園で過ごす 24 時間の相互理解、連続性がスムーズにあってこそ、快適な生活が送れ、安定した育ちにつながる。

○保育園の保育の様子を保護者に伝えるために、どのような方法がよいか工夫しながら取組が行われた。

○ドキュメンテーションの作成と活用・・・保護者の保育内容への理解、安心感の醸成、保育者との対話のきっかけづくり、子どもと保護者の話題づくり。

○クラスだより・・・「子どもの姿」「いいところみつけた」

○掲示板やホームページへの写真の掲示 ○「今日の給食」の展示

○保護者の子育てへの支援として、次のような取組が行われている。

○保護者と子どもがつながる絵本の貸し出し ○連絡ノート

○送迎時の保護者との会話・・・子どものエピソードを添えて話す。保護者の相談にも応じる。

○お見舞いハガキ ○途中入園児への対応

○クラスだより・・・「子育て知恵袋」など、保護者の困っていることへのアドバイスなどが書かれている。

○給食のレシピ集の発行や個別相談などの対応

・開かれた保育園運営

園長先生から保護者へのお便り「人権教育（保育）の取り組みについて（お願い）」

ここに、保育園の姿勢が現れていると感じた。保育園単位や学校単位で研究に取り組むことがあるが、そのことが保護者に知らされることは少ない。しかしこの園長先生の文書には、保育園が保護者の声を大事に受けとめていこうとしていること、そしてそこから見えてくる課題に、この機会を得て、どのような取組をしようと考えているのかが詳しく記されたものである。園を開くとはこのことだと感じた。園を開くと保護者も心を開いてくれる。

・AEDの園舎外への設置

AEDで助かる命は多い。しかし、その扱いを危惧し、屋内に設置されていることが多く、使うためにはガラスを割って取り出さなければならないということがあり、ハードルが高い。

鴨島ひかり乳幼児保育園では、園舎の外の西側に設置し、地域の人たちにも必要な時には使ってもらえるように考えた。そして使い方講習も、地域の人たちと共に行っている。新たな発想だと感じた。こうした地域への信頼が、地域からの保育園への協力・支援に結びつくものである。大いに参考にしたいことである。

(4) おわりに

私たちは少数派の子どもや家庭にこそ、目配り、気配りをしていかなければならない。そして、例えば、保育開始時刻に遅れて登園してくる子どものその行為を道徳的に見て「良い」「悪い」と判断するのではなく、遅刻をしてくる背景にはどのようなことがあるのだろうかという見方をしていきたいものである。遅刻をしないで登園するという道徳的行為がとれるようになることを目標とはしながら、取組は目の前の現実を見据え、そこからスタートすることである。

この実践集から、誰一人取り残さない保育のための多くの示唆が読み取れる。虐待を心配して地域の方から通報があった子ども、発達に心配のある子ども、子どもとのかかわりで苦慮している家庭等、その時々、困難な状況にある子どもの現実を見据え、しっかりかかわっていることである。

そうした子どもたちや保護者に対して、

- ・送迎時の保護者の表情やつぶやきなど、少しの変化も見逃さない。
- ・保護者との対話において、「大丈夫ですよ」でなく「体調はどうですか」と問いかけ、保護者から話してもらえよう、オープンエンドの問いかけが行われている。
- ・虐待を心配して地域の方から通報があった子どもについて、日頃の観察の目を緩めず、保護者に寄り添った支援が継続されている。
- ・巡回指導を活用し、専門的見知からの保護者へのアドバイスや、保護者の気持ちに寄り添ったサポートを行う。
- ・長期欠席園児へのお見舞いハガキを送ることにより、欠席はしていても、常に我が子の存在が忘れられていないことへの安心感につながる。
- ・アンケートの回答がなかった1人の保護者の思いをおもんばかる。

など、日常のきめ細やかな取組が行われている。

2020年1月に実施した保護者アンケートを見せていただいた。子育て、仕事、家事に追われる中で、保護者がよくこれだけの記述式アンケートに回答してくれたものだと思う。全職員で取り組んだ「心を育む言葉がけ」「保育の見える化」、そして日頃からの「誰1人取り残さない保育」の成果は、この保護者アンケートの保育内容への理解や保育者への感謝の気持ちの記述に表れている。そして、「保育の見える化」によって、保護者に共育（ともそだて）の意欲が定着してきたと感じる。さらに、これらは今後の保育への期待とも捉えることができる。

今回の取組が、鴨島ひかり乳幼児保育園の保育の普遍として根付き、園ならではの一人一人を大切にしたきめ細やかな保育が継続され、ますます発展されますことをご期待申し上げます。

3年間のお取組に敬意を表しますとともに、共に研究に携わらせていただいたことに感謝を申し上げます。

終わりに

2018年度吉野川市就学前教育研究会理事会で、2020年度に開催される第71回徳島県人権教育研究大会第10分科会で当園が研究発表することに決まり、取り組みがスタートした。当初は、第10分科会の主題である「人権地域ネットワーク」や討議課題の理解すら十分にできず、また乳幼児の人権教育をどうとらえるのかもわからず、ゼロからのスタートであった。

まず、保育園にとって「地域」とは何かを考えることから始めることとし、歩みはゆっくりであったが、最初の段階から発表者だけの研究ではなく、保育園全体で研究に取り組むことを意識し出発した。発表が決まった直後から、徳島県人権教育指導員であられた徳山富子先生にご指導をいただくことができたことは大変幸いだった。先生には研修会の講師をお願いしたり、中間発表を見てご指導いただいたり、作成文書に手を入れていただいたりと多くの時間を使ってご指導いただいた。また、いつも私たちに心のこもったお声がけをくださり、前に進む勇気が与えられたことに心から感謝を申しあげる。

発表に向け、園が一丸となって研究に取り組むなか、第71回徳島県人権教育研究大会は新型コロナ対応で開催されないこととなり、文書発表のみとなった。緊張が解けた安堵感とともに少し残念な思いもあった。それは2年間の研究内容がわずかA3用紙一枚に集約されてしまった無念さであった。その思いから、2020年11月18日、吉野川市保育事業研究会乳児部会研修会で人権発表を行うとともにこの研究集録を発行することとした。この集録には、かかわった職員の多くの思いが行間にあふれている。また、徳山先生の話の中で「県人権の発表が終わりではなく、そこからがスタートだ」といわれた言葉が思い起こされる。この集録が足かけ3年の研究にかけた職員のエネルギーを振り返るものとなるとともに、今後の当園の人権教育の礎となるよう保育活動に生かしていきたい。

(樽見 義)

人権研修担当クラス名簿

役職	氏名	2020 年度	2019 年度
園長	樽見 義		
主任保育士	宮本 千秋		
保育士	坂尾 美佳	ひよこ	りす
保育士	小倉 聡子	調理	調理
保育士	江口 光	うさぎ	うさぎ
保育士	松野 愛	きりん	ひよこ
保育士	岡崎満里子	ひよこ	うさぎ
保育士	岡部 有希	りす	ひよこ
保育士	宮本 紀子	うさぎ	りす
保育士	北川久美子	りす	きりん
保育士	三浦 祥子	りす	きりん
保育士	河野あずさ	きりん	りす
保育士	木津 明星	うさぎ	ひよこ
保育士	片山 優芽	ひよこ	うさぎ
保育士	喜田 麻帆	りす	りす
保育士	小川 真奈	きりん	きりん
管理栄養士	池渕 智子	調理	調理
調理員	図子奈津代	調理	調理
保育士	岡田 梓沙	きりん	
保育士	佐藤まゆみ	調理	ひよこ
看護師	中井恵美子	調理	調理

人権研究集録

第71 回徳島県人権教育研究大会発表に向けた取り組み

2021 年 3 月

発行 社会福祉法人 鴨島ひかり会
 鴨島ひかり乳幼児保育園
 〒776-0005 徳島県吉野川市鴨島町喜来 323-151
 TEL. 0883-24-1282 FAX. 0883-24-1283
 E-mail. Kamojima-hikari@nifty.com
